

第11回総会開かる

静中・静高 関東同窓会 会報

静中・静高関東同窓会
 会報 第22号
 昭和61年12月5日発行
 編集人 月見里得知郎



第十一回の静中・静高関東同窓会総会が、恒例のように今年も築地スエヒロで盛大に開かれました。六月二十七日（金）、前夜からの大雨も一休みしてまずは一安心。午後六時すぎ、三八期から、今年卒業したばかりの一〇二期までの六〇年にわたる岳南健児が三百余名、それぞれの思いを胸に集いました。

会場入口の受付は年代ごとに分けてあっても大混雑。会費を払って名札と会報21号、職業別会員名簿を受けとり、満員の会場に入りました。

受付と相対して設けられた静岡の特売品の即売コーナーも売れ行きは上々で、会が始まるまでには皆店じまいと相変らずの盛況で、静岡に対する強い郷愁を感じさせました。

総会は、宮澤次郎会長（42期）写真上）の挨拶から始まりました。「同じ学校を卒業し、今日、ここに集うことになったのも一期一会の縁。縁を大切にして行きたいもの」との話につづいて、静岡からこの会のために上京して下さった同窓会本部の川村副会長より、「ヤングパワーに明日の活力を見る思いがします」と挨拶がありました。さらに鈴木清見校長から静岡高校の近況が次のように報告されました。「昨年はシードされたが甲子園に行くことができませんでした。今年はシー

ドされないかもしれませんが頑張ります。校舎も年数を経て古くなって参りましたのでとりこわし、来年秋から建直して八八年には五階建一棟のスマートな姿を完成させる予定です。先輩諸兄にはいろいろと助言、援助をお願いすることがあるかと思いますが、よろしくご協力の程お願いいたします。

進学の方も好調で、応援団やラグビー部で活躍していた生徒が東大に入るなど幅が広がってきています。その後、宮澤会長に指名された奥野副会長（53期）が議長席につき、昭和六〇年度事業報告・会計報告の審議に入りました。総会の司会役も務めている月見里幹事長（53期）から報告があり、村松監事（42期）の監査報告とあわせて承認されました。名簿発行のための借入金に関して、今後このようなことがおこらないように会費の納入を促進して行くことが要望されたことは注目すべき点でした。つづいて昭和六一年度の事業計画・予算計画の審議に入り、これも満場一致で承認され、議事はすべて滞りなく終了しました。

その後の懇親会は、今年も参加者の中で最長老の38期石割正先輩の乾杯の音頭で幕を開けました。参会者といえは、幹事の方々の努力で静岡から取り寄せられた黒はんぺんのフライや静岡独特のおでんに直行。久しぶりの珍味にまずは舌鼓。腹の方もよくなつて仲間どおしの話にひとしきり花を咲かせます。「今年も会えたな」とか「何年ぶりだ」とか、会場のあちらこちらで旧交をあたためる様子が見られました。

歓談もたけなわの頃、一人の若者がマイクの前に立ち、「九九回の〇〇です。今年大学を卒業します。総合商社に入りたいと思っています。よろしくお願いします」とまずは威勢のいい売り込み。彼だけではなく運動部などの先輩のつてを求めて歩く後輩の姿が例年より多かったのが印象的でした。

大詰めに近づき、会の冒頭に鈴木校長から紹介のあった今年卒業の一〇二期佐藤友男君のリードにあわせて応援歌、一〇〇期の加瀬沢正義君の指揮で校歌を斉唱したあと、四〇期野崎操一先輩の音頭で万歳を三唱し、来年の再会を約して散会しました。

年々、静岡中学時代の校歌を四番まで歌える人の数が少なくなつてきており、会の当日には歌詞を印刷して配る必要があるのではないかと感じた次第です。

昭和60年度 静中・静岡関東同窓会決算書

(S 60.4.1-S 61.3.31)

I 収 入		
59年度 謝金	502,556円	
59年度 会費 (1名)	2,000円	
59年度 会費 (21名)	42,000円	
60年度 会費 (996名)	2,081,000円	
61年度 会費 (7名)	15,000円	
62年度 会費 (1名)	3,000円	
広告料金	350,000円	
広告料金	120,000円	
預金利息	3,564円	
収 入 入 入	3,000円	
収 入 入 入	52,600円	
収 入 入 入	27,000円	
収 入 入 入	500,000円	
計	3,791,820円	
II 支 出		
会費	537,000円	
印刷費	1,110,000円	
印刷費	1,033,390円	
印刷費	89,000円	
印刷費 (フルバード)	100,000円	
印刷費	39,500円	
印刷費	2,220円	
印刷費	108,100円	
印刷費	7,000円	
印刷費	267,053円	
印刷費	12,600円	
計	3,305,863円	
III 残 高 (次年度繰越)	395,957円	

(収入の増入金50万円は次年度にて返済)

上記収支の結算通りであることを認めます。

昭和61年5月14日

 監 事 村 松 直
 監 事 村 井 東 助

昭和61年度 事業計画 (案)

1. 総 会 年 1 回
2. 順 同 会 年 1 ~ 2 回
3. 幹 事 会 年 5 回 此
期間会と幹事会は合同でやる場合もありです。
4. 会報の発行 年 2 回 (6月・11月発行)
5. 懇 親 会 ゴルフ大会 (年2回)
釣り大会、ハイキング大会 (年1回) 等

昭和61年度 静中・静岡関東同窓会予算 (案)

(S 61.4.1-S 62.3.31)

I 収 入		
謝 金	395,957円	
年 会 費	1回 1,000円 2回以上×1,250円	2,500,000円
広 告 収 入		250,000円
計		3,145,957円
II 支 出		
会報発行費	540,000円	
名簿発行費 (相違及び集票別名簿)	200,000円	
酒 耗 品 費	50,000円	
郵 送 費	900,000円	
印 刷 費	100,000円	
人 件 費	100,000円	
事務用品費	5,000円	
会費補助費	300,000円	
借入返新	500,000円	
予 算 費	450,957円	
計		3,145,957円

◆幹事会

- ・61年7月29日 (火) 18時より
- ・主婦の友ビル3階14号室
- ・出席者 33名
- ・61年度総会報告、会報と名簿の發送依頼 など

◆幹事有志懇談会

- ・61年10月2日 (木) 18時より
- ・築地スエヒロ9F
- ・出席者 43名
- ・会報22号掲載原稿につきお願い
- ・役員改選について意見交換
- ・59期木宮和彦氏、参議院選挙に当選のお礼とあいさつ

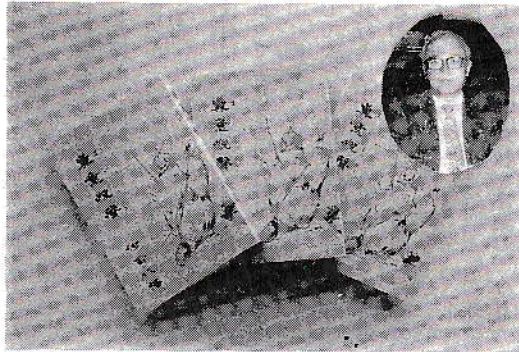
その後の同窓会活動

(S 61年7月~11月)

- ・61年9月24日 (水) 18時より
- ・築地スエヒロ9F
- ・出席者 43名
- ・会報22号掲載原稿につきお願い
- ・役員改選について意見交換
- ・59期木宮和彦氏、参議院選挙に当選のお礼とあいさつ

河合静岡市長 (70期)

エッセー集を出版



- ・築地スエヒロ
- ・奥野副会長ほか5名
- ・役員改選などについて意見交換

河合代悟静岡市長のエッセー集が、静岡教育会(佐久田昌一(会長)から出版された。書名は、ちょっぴり「遊び心」を盛り込んで「真意悦聲(まいえつせい)」、地方自治関係の専門書は何冊か著している同市長だが、一般向けの本の出版は初めてという。

「真意悦聲」はB5判、三百五ペー

ージ。四十三年以来新聞や雑誌、団体などの機関誌に寄稿したエッセー、書評をはじめ、米国・カナダ訪問(五十二年九月)、中国訪問(五十五年六月)の旅行記、小笠原調査団に参加(四十二年十一月)した際の日記などが収録されている。

「もともと、ものを書くのは嫌いでない」とあって、これまで寄稿、発表したエッセーなどかなりの数。佐久田会長の勧めもあり、「ちょうど五十歳。ひとつの区切りの年だから」と、昨年春ごろから、忙しい公務の合間を縫って原稿の整理、加筆訂正作業を進めた。

「出来上がった本には、思い出の写真も数多く織り込み、自作のカットでページを飾った。

写真の中には、写真嫌いで知られるフランスの画家バルチャス夫妻が五十九年六月に静岡を訪れた際、一緒に撮影した一枚も。「この時の訪日と一緒に写真に納まった日本人は私だけでは」という自慢のもの。

「真意悦聲」は定価九百八十円。県内の主な書店で発売されている。

建築設計・監理

株式会社 ユニオン設計センター

代表取締役 成岡英彦 (67回)

一級建築事務所登録7425号

東京都新宿区西新宿7-14-9 規格ビル

TEL 03-363-8604 (代表)

話題のスペース

(明治通りと大久保通りの交叉点)

レストラン・モア

小人数から30名様くらいまでクラス会等に最適です

土屋晃康 (67期)

TEL 03-208-2931・204-1251

東京都新宿区大久保2-1-3

各 期 便 り

四三期

秋晴れの静岡で

第五十六回目の静岡三笑亭の昼食会に久しぶりに出席した。毎月二十日の定例になっているので、遠くからでも出席しやすい。今回は十月二十日ですばらしい秋晴れにめぐまれて、集る者も十三名となった。

幹事から綴友の計報の知らせがあり、喜寿を前にした旧友を失い誠に残念である。六十年六月には東京の竹田康義君を失い、十二月には静岡の佐藤福次郎君、六十二年二月には加藤金治君、同年四月に東京の芹沢正憲君、六月に静岡の藤田金作君を、十月に入つて静岡の伊藤寿雄君が療養の甲斐もなく死去された。この一年間で六名の親友を失ってしまった。

今日の会合は幹事の近藤伊佐男君、磯谷幸一郎君、松永清平君のきもいりで、遠くは大阪の平山桂君がはるばる来静、東京からは私が出席した。

集まれば話題も昔にかえり、話もはずみ三笑亭のアラカルトを味

いながら懇談にも身が入った。

平山名医がおられるので健康談義も身が入り、早速先生の診察希望者も現われて一刻診断に花が咲いた。午後三時も過ぎ大阪の平山君も帰途につかれるので再会を約して一応散会した。

平山君と私は静岡駅で東西に分れて帰途についた。車中からは絶好の秋晴れで麗峰富士も初冠雪で見事な眺望であった。

当日の出席者は次の十三名である(到着順)。

近藤伊佐男、平山 桂、西沢純三、松永清平、八木友治、大村康孝、小杉 一、宮崎 昭、磯谷幸一郎、滝口亀太郎、堀田利郎、見原三郎、大石貞次 (西沢純三)

四五期

ブドウと私

最近ブドウ農家の間で新品種の育成栽培が盛んになり、消費者の嗜好も向上して、永年王座を譲らなかつた巨峯やアレキ、マスカット、デラウエヤ、甲州、ペイリ1A等の市場をおびやかすように

なりました。鮮紅色で、輝くように美しく、糖度も二十度前後と高く、弾力のある果肉と皮ごとシヤクシヤクと噛む感触の快よさのあるオリムピアとか甲斐路、紅富士等から黒紫色系では巨峯をものしのご巨大果粒の甘いピオーネやブラックオリンピア等々、白色黄色系では白峯、ロザキ等の高級珍種が在来物の二倍三倍の高値にもかかわらず急速に人気を高めつつあります。

私は子供の頃からの永年のブドウに対する愛着と好奇心から、これ等のブドウは勿論のこと、他にもマリオ、サバルカンスコイ、リザマート等の中近東物を土台に交配した変型甚大果粒物を始めとして、カトーバ、コンコード、ナイ

アガラ等の明治大正の農商務省奨励品種だった米国ラブルスカ系生食用品種から世界一長尺物のカナソの地のネヘレスコール、これにつぐ日本の甲州三尺、長竜等を次々と育成し、又醸造用品種では有名品種は手当たり次第に入手して、鉢培、直立栽培(レンツモゼル式とか直立コルドン式等というやり方)又は垣根式栽培(水平コルドン式とかグレイヨースと称する)で観察参考用に植栽して好奇心を満足させました。

最近、三年の闘病生活中放置して手入をおこたつたため病虫害にやられてこれらの大切なブドウを壊滅状態に追いこんでしまいました。今夏湘南の転地療養先に生き残った僅か十七株の敗残兵ブドウを引連れて大手術の上移植したところ、盛夏八月の暑い盛りの移植にもかかわらず十株が活着して、この十月青々とした新芽をふき出して喜んでおります。

これからの余生は、彼等傷病ブドウのリハビリと共に仲良く私自身の長期リハビリ生活をも始めることになりました。

というわけで終戦の翌年春、日本料理店を始めた時には私は何等の抵抗もなく日本料理にブドウとワインを取り入れてみようと思い、季節の珍らしいブドウや各国のワインを調達使用しました。私の所屬していた銀座京橋の中央料理組合には昔からの一流のベテラン業者が沢山いましたが、有名な伊豆井の大将や四条流家元の山下の旦那等は素人の私を案じて、ワインなんか使つて大丈夫かい、お客を落すよ等と心配してくる一方では、ワイン効果の成行きを老舗の業者らしく絶えず注視していました。静岡総会会場のスエヒロの先代は食肉専門ですから早くからワ

インを使っておりましたが、同業無尽の集りの時には良く素人の私のそばに坐つてアドバイスしてくれました。

当時の国産ワインは暑のアルコールに人工甘味料とブドウの色素を入れ、軍用に酒石酸を取ったあとの残滓ブドウを申し訳程度に少し混ぜて合成したものが主力でした。

然し新橋、有楽町等の青空市場には、外国の本物ワインや食料品が沢山出まわつて入手にこと欠かない状態で、カリフォルニア物、豪洲ものからポルトガルもの等が色々ありました。野放し状態の市場がしめ出される頃から講和も成り、戦前業者や外国商社が動き始め、昭和も三十年代になると、日ソ国交ムードに乗つて新たに今迄見られなかつた東欧ソ聯圏の品や新世界ものが少量ながらも入荷し始めるに及んでワインの世界も夜明け前のあわただしさを呈して来ました。

私はそれらのワインを友人や常客にサービ的に試用してその反応を観察しながら、より良いもの、新しく珍らしいもの、うまくて安いものと選択の目標を絞って行きました。

そんな情勢の中で特に印象に残

り客筋に歡迎され私用にも愛用したものを迎てみますと、ハンガリーのエゲリイの赤ワインビカベリとか、バラトン湖畔のバダジョニイ、ブルガリアでは、スキンドル附近を中心とした赤のガムザやブルガリアの谷で有名なカルロブ附近の白のミスケットやリースリグ。ソ聯ものでは赤のムクザーニ白のツイナンダリとかグルジアアーニ等々。これ等のグルジアワインはヤルタ会談の時チャーチルが激賞して、帰国の際、貨車一両分を土産にした等の話が日本にも伝わり有名になったものでした。

南加産ではフレスノとかサンデイエゴ辺の中級ワイン程度でしたが、ポールマッソン・ローマンワイン等の製品が当時の一般嗜好には合いました。

ポルトガル物では、北部のミニニヨのカサールガルシアとかホンセカの名のヴィンオヴェルデ(半発泡の若酒)が薄青白く美しい色で、特にのど越しの爽快さとアツサリした辛口が塩焼の魚や底物の平日やオコセ・フグ等の薄作りにピッタリで好評であり、赤のダンも辛口でスキヤキ、オイル焼に良く合いました。当時一本七、八百円から千円止りでしたから、日本酒との値段感覚のバランスも良くて喜

ばれるワインでした。

これ等の中でソ聯や東欧共産圏ものは何れも栽培から醸造、ボトルリング、輸出に至る迄すべて酒類貿易公団が国営で取り仕切るもので製品は均一化してワインの持つ個性的な魅力に欠けるキラリはありましたが、値段が格安で品質が安定して安物の割には意外にうまいこと、継続的に安定供給が得られること等により、ファンも多く業者間では人気があつて、今日も盛んに出回つていて、東欧物を扱うデパートや大手スーパーでは楽に入手出来ます。

昭和も四十年頃になると、海外航空の伸展で本場の仏、独、伊、スペイン、スイス、オーストリア、チェコ、ユーゴ、ギリシャ、イスラエル物迄入り始め、濠洲を始めとする新大陸からはチリ、アルゼンチン、ブラジルもの、北阿南阿ものなども少量ながらも入荷し始め、又原料ブドウも直輸入して日本でボトルリングする傾向が出て来ました。

ワインの高級指向はそれなりに楽しく又つときせぬ興趣もわきますが、最近のワインブームで、ブドウのナチュラルワインが一般常用酒として食前酒として酒類の中で最も好ましいものであるという認

識が高まりつつあることは良いことだと思えます。

ワインは世界中のどんな料理にもマッチする最良の酒であり、肉食が陥り易い栄養のアンバランスをコントロールする効果的なアルカリ性飲料でもあります。

国民の栄養管理上も、また在来の家庭でのオヤジ本位の晩酌という封建的飲食習慣を改善して家族みんなの団樂の風習を促すためにも、酒精度が低くて適正で、安くても、酒精度が低くても種類も選択の巾の廣くて楽しい事など条件の揃つてブドウのワインを、国民的常用酒として普及させたいものと皆さんは思われませんか。

さて、このように永年ブドウに親しみ、又仕事上ワインを扱っているうちに私の好奇心と興味は限りなく膨らんで、今迄親しんだブドウやブドウ酒のルーツを夫々の国々の栽培地、醸造地を巡つて探究観察してみたいと思ひ立つてこの方、事情と暇の許す限り観察の旅を重ねており、既に欧州の大半北米の東部西部の重要栽培地帯を巡りました。

普通の観光旅行と違つて誠に地味で不便と困難の多い旅になるなと最初思ひましたが、予想に反していつの場合もこんなに楽しく又

有益で興味深い旅はありませんでした。思ひぬハブニングに出逢つたり、珍らしい文化遺産に感激したり、色々な人情風俗に触れたり、一般の観光コースとしてはとても旅行社も採算上考慮できないような名所や辺境奇勝に出逢つたりして、ブドウの畑まわりならではとても叶わぬ旅と思つた事もしばしばでした。

少しばかり、それらの想い出を書かせて頂きましょう。

ポルトガルの北部は私とブドウの出逢いにとって二つの目標がありました。一つはポルトワインの本拠オポルトの対岸(河口港をなしている)ヴィラノバ・デ・ガイアに、永年店で愛用したサンデマとシントラの酒倉を訪問すること、他の一つはオポルトの北方ミニニヨ地方に展開するヴィニオヴェルデ(ポルトガルの独特の半発泡酒で世界に多くの愛好者を持つ食卓酒)の生産地帯に触れることでした。この念願を果し、ミニニヨの見物も終えて、ここを南下して中部ポルトガルのダンの名で知られたヴィセウの町中心の畑を見て、モンデゴ川に沿つた旧首都コインブラに入り、この静かな中世の都にしばらく落ち着いたことがあります。

ここには十三世紀末に設立されたと云われる欧州最古の綜合大学の一つコインブラ大学があり、その川向うの丘の上にはサンタクララの大修道院があります。十六世紀の中頃、北九州のキリシタン(大名の大夫・有馬)の派遣した少年使節団の一行がここの枢機卿に招待された時に、流暢なポルトガル語で日本におけるイエズス会の布教活動について演説して彼等を感じさせた話はブドウの古文書を漁つた時に記憶があつたが、数年前三浦悟郎著「少年讀歌」を文春連載で読む程に興趣つまず、後年彼等のポルトガル・スペイン・北イタリアの足跡をブドウと共に巡り歩いて大変楽しい思い出を作ることになりました。

コインブラを南下してポルトガルの高級ワイン地帯エストレマツーラに入り、有名なナザレの漁村に中世風のたたずまいや美しい昔ながらの極彩色に塗られた漁船など見物した時のこと、この近くのパタリリアの修道院に是非寄つてごらんと言われて訪れたら、これが千三百八十八年に国王ジョアン一世がアラブの追放とポルトガルの独立をめざしてかの有名なレコンキスタ運動の聖戦を起こし、その戦勝を祈念して建立したドメニ

コ派の壮大な大修道院であったので、思わぬハブニングに感激しました。

更に五〇キロ位だったか南下すると、ブドウ畑の中にそびえる丘の上に童話の中の画のような尖塔の二、三本立ちならぶアラブ風のペーナ城に出逢いました。

これが又しても料理関係者にとつては面白い出逢いでして、百疊敷もあるかと思われる大厨房の中に五百年前の水道の蛇口から今日尚勢い良く水がとび出すのを見たり、大宴会の調理に用いられた等身大の木製のスプーンやフォークたらいのように大きな鍋やフライパン等々。

ここに来る道中遠望された尖塔はその煙突だったのです。

スペインのワインの旅でも又別のハブニングに再々出逢いました。が、その一つはシェリーの中心ヘレス、デラ、フロンテラ地方に日本のソールエーダントの紹介でサンデマンのディレクターを訪問した処、このボデガの老支配人が五十年前横浜に勤務していたという大の親家で、思わぬ歓待をうけ、ホテルから見物すべて手配して頂いて、帰りの車のトランクにはアモンテラードとかオロソだったと思うが、高級シェリーが三

箱入れられていた外に、一冊の小冊子がありました。

『アンダルーシア地方のモローの城塞』 The Moorish Castles of Andalusia (R. Hinton)

という本で、彼は道中これを参考に読んでブドウ地帯をまわると面白いよと言うのでその通りにしたのですが、これは全く楽しいものでした。オルベラ、アラセナ、カルモナ、アルハンブラ、アラガ、バルデペーニア、アンサナールス等ブドウめぐりの随所に大城塞や砦を見学しながら、モローの侵入とキリシタンの巻返し『レコンキスタ』の歴史やサラセン文化七百年有余年の遺産に全く異質のヨーロッパ文明を発見したりで、二週間がアツと言う間にすぎたことがあります。

以上はイベリアの一例でしたがこのほかブドウを訪ねて行く処見る処又異なつたハブニングが次々と起きて興味はつきませんでした。

これから海外旅行を楽しめようとする若い皆さん、海外駐在の方々、こんな型のワインの田舎めぐりをためしてみませんか。ワインのバスツアーやレンタカー網を利用されれば、費用は意外に安上りで、スケジュールに追いまくら

れることなく、気ままにブドウ文化や酪農文化の別の世界の風土や人情風俗に触れてみるのも国際化時代の相互理解の向上のためには有意義なことではありませんか。

今迄東洋のモンスーン地帯の稲作文化穀物文化の中で、長閑に経済摩擦や色々なトラブルにゆざぶられることも比較的少なく単一民族(?)の気楽な別世界に安住して来た吾々日本人にとっては、特に若い方々にとっては、おすすしたいところです。(黒田朋彦)

四七期

野球はツィダンから

外から伝わったスポーツで野球程盛んであり、人気のあるものは他に見当りません。

春先になると、どこでもキャッチボールが見られ「春はバットの響きから」そのもので、季節にもなりかねません。

野球というスポーツはそれ程連続した激しい動きもなく、休み休みやれるし、打ち、投げ、走るの変化もあり、上手下手にかかわらず飽きませんし、楽しんでプレーが自分にもやれるために身近に感じ、「入りやすい」スポーツの一つだった訳です。

自分がやれると、試合するのも

又見物するのも面白く、「ああでもない、こうでもない」と勝手な批評も出来るために余計に親しめる訳です。

野球が盛んになったもう一つの原因にすばらしい「訳語」があります。「野球」は勿論、「儀打」「ビーゴロ」「安打」「塁打」「三塁打」「三振」「ゲッツー」「アルファ勝」等名訳、誤訳、混用語、新造語等で、やや複雑とも思えるルールを解りやすくし、今日では完全に日本人のものにしてしまいました。

・ ファウルは三十六回までよい
それ以上はアウト
・ ホームベースを踏んでバッターボックス入りしたらアウト
・ コーチャーボックスを出て指示したらアウト
・ ボールを握っていてもグロブでのタッチはセーフ
等々、草野球ルールをからませて「野球」を楽しんだ先人達、いかにも近代的で「カッコよさ」を満喫した野球愛好家の集積が今日の強い人気を作り上げた原因でしょう。
・ 三百年の歴史のある将棋はたくさんの「金言」「諺」があります。
・ シチュウ知らずに碁を打つナ

・ 左右同形、真中に手あり
・ メアリメなしはカラの攻合
・ 死はハネにあり
・ ヘボ碁にダメなし
将棋にもたくさんあります。

・ 横歩トリ三年の愚い
・ 金底の歩は岩より堅し
・ 歩のない将棋は負将棋
・ 両取り逃げるべからず
・ 桂の高飛び歩のエジキ
その他数えきれません。
野球にもこうした「金言」「諺」が生れました。「飛ぶボール、金属バット」等で戦術にも多少の変化はありましようが、基礎は同じです。墨間の長さ、投手板の位置は近代野球が生れて一世紀近く過ぎたのに変化なく、野手がハンブルすればセーフ、逸球すれば進塁出来、外野手を抜けば長打、とうまく作ったものです。
私の創作したものをも入れてもらってよく言われる諺、金言、心得等並べて見ます。
・ 野球はツィダンから
・ ラッキーセブン
・ ピンチのあとにチャンスあり
・ 野球は七対三の力でも勝てる
・ 野球は「デフェンス」を競うゲームである
・ 自分の他に八人の仲間がいることを忘れるナ(ベール)

ス)
 ・たかが野球だ、思いきってやれ
 ・チャンスに平然、ピンチに泰然
 ・一度油断すると一晩では直らない
 ・どうにもならないのが「運」
 ・「運」も実力のウチ
 ・「運」を味方にするには練習しかない
 ・人気のあるチームは強い。伝統とは人気のことである
 ・見物人は強い味方。礼を尽せ
 ・大勝負の一戦は十日の合宿練習に勝る
 ・大勝負には先攻を採れ、気合負けするな
 ・先制攻撃は七割の勝
 ・一日サボれば三日戻る
 ・試合のときは自分が一番ウマイと思え
 ・張りつめた気力はケガも防ぐ
 ・ノーダグ満塁、大量点を望むな
 ・ツーダグ満塁、点にならない
 ・逆転・満塁・サヨナラホームランは、小説上のハナシ
 ・ヒット打つより四球を選べ
 ・初球にホームランが多い
 ・暑い日はボールがよく飛ぶ
 (マイク・シュミット)

・交替した野手のところへボールはよくゆく
 ・追越しスクイズは成功するが追まきスクイズは成功しない
 ・右投左打の選手はバントがヘタ
 ・バントは三塁手に捕らせるようにコロガセ
 ・左利き速球投手はコントロールがワルイ
 ・野球には三度チャンスがある
 ・二度はものにせよ、一度では危い
 ・スイッチヒッター、ナマクラ四つ、大関にならない
 ・大勝負は前夜のウチに決まる
 ・イレギュラーもテキサスもある、勝負はあきらめるナ
 ・雨も誤審も野球のウチ(オドル)
 ・試合開始の少くも六時間前には起床セヨ、全神経が目さますには時間がかかる
 ・最後のバッターにはなるナ
 ・球道に垂直にバットを当てヨ
 ・球はセンターが一番速くへ飛ぶ
 ・一番打ちにくい球は速い球
 ・スローボールは強振するナ
 ・右手グリップを軽く握ればと教えるのはウソ
 ・バットはいつも水平に振れ、

流行に迷うナ
 ・ライト側はヒットの山、レフト側はゲッツの谷
 ・山をかけて打て、二兎は追うナ(テッド・ウイリアムス)
 ・読書もバント練習も百遍、バントはゲームを大きく分ける
 ・打つ構えは「正眼」「自然流」が良い
 ・キャッチャーが四番のチームは「優勝」が多い
 ・二度突らぬ作戦は三度も駄目
 目
 何事も例外は多いものです。ましてや野球は「一寸先はヤミ」であり、一球で勝負の決まることの多い競技です。金言も当然例外の方が多くことでしょう。しかし以上のようなことがらを頭に置いて野球を見るのもより以上面白いものです。「野球は退屈なゲームである(ヤンキース、ベビートン)」と言う人々もおられます。次の瞬間を予想しにくいものを予想しながら見るゲームも魅力です。必勝の戦法があるはずがありません。将に「野球はツーダグから」で見物するのも面白いという意味でもあるように思われます。
 尚文中ベブ・ルース(ご承知の通り)マイク・シュミット(現役フィリーズ強打者)テッド・ウ

イリアムス(レッド・ソックス強打者)ベビートン(ヤンキース「ボールファア」の著者)オドル(サンフランシスコを率一度々来日)(マイク・シュミット以外隠退)
 (野球部OB・片山正二)
 × × ×
 片山氏は焼津市の出身。片山七兵衛氏の令息。野球では二塁手、一年下の鈴木芳太郎投手たちと甲子園へも出場しました。卒業後横浜高商で野球部員として下山、望月、今井の諸兄と共に静中の名声を高揚した選手でした。野球の金言や談、ジントクスなどに詳しく、一緒に観戦すると、いろいろ知識がふえたものでした。甘栗の本舗日の出屋の社長です。(杉山栄一)

四九期

古稀を迎えて
 昭和九年静中を卒業して満五十二年を過ぎ、今年は大分の方々が古稀を迎えられたことでしょう。去る六月二七日関東支部総会には在京三五名に連絡したのですが、出席は伊藤(徹)、菅沼の二名でした。諸兄の積極的な出席を希望します。
 また九月二〇日、二二日、四九期の総会が静岡鷹匠会館で開催され出席者三五名。東京方面より馳

せ参じた者二名(石田、今村、上杉、植木、江山、陰山、直原、篠田、菅沼、曾根、田中(良)、安本)。
 会では懐旧談やら体験による老花防止策の開陳など、夜を徹して話し合った。
 最後に長生法として、「風邪をひくな、転ぶな、義理をかけ」が一同納得するところであった。(菅沼栄)
 五〇期
 五〇期例会報告
 十月二十日(月)十八時より、レストラン・プラザにて開催、浅賀、梅村、大庭左、大庭寛、梶原勝又、佐野三、田中、永田、益田峰田、山田の十二名に、静岡から木下、小泉の両君がかけつけ、賑やかなひとときを過ごした。中には卒業以来初めて会う人もいて、お互に相手を確めあう風景もみられた。歎き尽ぬ態であったが、本年度会費の完納、明年一月十五日の静岡への参加、次回は明年四月二十日(月)同所同時刻に開催することを決め、校歌を斉唱して解散した。
 席上、某氏から「クオリッジ効果」なる珍説が披露されたので、そのあらましを付記する。米国第

三十代大統領カルビン・クレーンが、或日国立農事試験場を視察された。どういふ訳か夫人の方が一足早く養鶏場の前に来た。説明員は「大統領閣下夫人、この雄鶏は一日数十回セックスします」と不動の姿勢で申し上げた。「あとから大統領がみえたらよくいって頂戴！」といい残して夫人は立去られた。間もなく大統領がみえたので、くだんの説明員は早速、「大統領閣下、この雄鶏は一日数十回セックスします」と申し上げた。閣下は落ちつき払い、「フーン、そうか、然し相手はみんな違うだろうか」といった。「ハイ、閣下、そのとおりです」

「あとで家内によくいってくれ給え」。このことから相手が変わると元氣を取り戻す現象を「クリジ効果」というようになった。そうである。そもそも動物の最大使命は子孫を残すことにあつた。で、かかる使命が果せなかつた。徒勞は、この世から消え去るものが、厳しい自然の掟である。逆説的にいえば、セックスへの関心が旺盛で、まだまだ現役であることは、生きてゐる証であり、生命力が衰えていないと申せようか、先般台湾旅行をし皺くちゃなヘンゲンデマンマを見られた眼には、いか

にもビチビチした、湯がはじけるような肌は新鮮そのもの、ついハッスルし過ぎましたと。

さもあらばあれ、次回も元氣で再会を約して帰る諸賢の足どりはことの外元氣に感じられた次第である。

(永田 徹)

五二期

ベッドとひとこと

何か月前のことだったろうか。

家内が長年親しく付き合っていた友人が軽い脳出血がもとでしばらくは寝たきりになるといふ事態が起きた。心配した家内は毎日のように見舞いに通っていたが、ある日、私にこんな提案をした。

友人の家は古い造りで家全体がうす暗く、特に彼女の部屋は高窓風で、畳に布団を敷いて寝ていたのでは日差しも届かず、何となく陰気ではないか。あれでは治る病氣も治らないのではないかと。幸い使わないベッドがあるから差上げて使って頂くというのである。

無論私に異論はない。家内はその日のうちに運送屋を頼んで友人宅に運ばせたところ、大変喜んで早速部屋に持ちこんだという。家内と一緒に彼女をベッドに移し、家内は満足して帰ってきた。

それから暫く、亡父母の法事や

何やらで家内も忙しく、電話での見舞いが続いていたようだが、一段落したところで、大分ご無沙汰だからと、たまさかの日曜日、いそいそと見舞いに出かけて行った。

私には別段外出の用事もないことだから、ゆっくりしてきてよいと家内を送り出し、昼時になって近くのファミリー・レストランで昼食でもとサンドルをつづけたところへ、あたふたと駆けこむように家内が帰ってきた。

一目見てただ事ではないと分った。血相が変わっている。容態が急変したのかと一瞬思った。

「失礼しちゃうわ!」 最初口をついた言葉がそれだった。ハンドバッグを見舞いの菓子折と一緒に放り出すとベタリと坐りこんだ。

床上から四、五十程は高い筈のベッドに寝て、気分もよくなり、いくら何でも快方に向つていくればよいが、そんな期待に胸を膨らませて門をくぐった家内の足が、玄關左手の庭先を見た途端、すくんだように止ってしまったという。

家内がそこに目にしたものは自分が運んだベッド、そしてその上には「粗大ゴミ、清掃局行」と書いた大きな紙が貼りつけてあった。

「なにも棄ててしまわなくなつて……、要らないなら要らないでひとこと言つて下されば……」

家内の不満な顔を眺めながら私は、ふと浮んでくるのが笑いを禁じ得なかつた。

生来の世話好きが年と共に昂じて、この頃では、どうやら年寄りのお節介と思われ兼ねない節がある。先方には先方の都合というものもある。やみくもに狭い部屋に大きなベッドを持ちこまれて、断るに断りきれず、一応有難がつてはみせたもののその実、困惑している先方の顔が目につく。しばらくは伺えないという家内の電話を受けて、それならば内緒で厄介物を処分してしまおうと思ひ立つたとしても強ち無理からぬことと思われる。ただ、確かに家内がこぼすように、処分する前に一言連絡する位の配慮が先方にもあつて欲しかったとは思ふのだが……。

今年65才を迎えた家内を見ながら、お互い齢をとつたなあ、としみじみ思うと同時に、まだ拗ねている家内に何とはない共感を覚えた。

いくらか気持の落ち着いた折を見て、ゆっくり心のしこりと微かな傷を癒してやりたいとひそかに思った。

(広川 聡)

五三期

東北紀行

この四月に第二の人生を終えた私は、第三の人生には自分の趣味を生かして、今はやりのコミュニティ・カレッジでの日本古代史を受講することとした。その一環として、平泉中尊寺八百年特別大祭の拝観を主目的とする研修旅行に参加した。

今回の旅行は、陸中・陸前にわたって、三日間に六百軒をバスで駆けまわる強行軍であった。第一日は新花巻を出発し、宮城県美術館に至つて一の関に戻った。その間成島と藤里の二体の毘沙門天像と地天女像及び付随する木造諸仏(何れも重要文化財)、黒石寺の薬師如来像と僧形像及び四天王(何れも重要文化財)他、築館の双林寺の阿弥陀如来像と薬師如来像(何れも重要文化財)を拝観した。観光地化されていない北上山脈山麓の辺境の地にかくも多数の九世紀代の仏像が安置されているのは驚かされた。これらは、神仏混淆時代以来、神社の境内にある堂宇に収められている。しかもこの堂宇自体が風雪と火災の試練に耐えた古色蒼然としたものであつた。

また、何れの境内にも千年を超える樹令の杉や榎の大木があるのは、その歴史を証するものであった。

これらの寺のうち、黒石寺は水沢市東南の北上川東岸に位置しており、この地方では由緒ある古寺であったが、この黒石寺という名前の由来は地名とは関係なく、堂宇までの石段と堂宇をめぐる敷石に黒く変質した蛇紋岩が使われたために名付けられたとのである。

私は旅行する時には、その先々で記念のため石など拾ってくる癖を持っていたが、今回も敷石の中から泥にまみれた一個の石片を拾ってきた。旅行後、この石を磨いたところ、貴石と言ってもよい程、黒い石に赤い縞が綺麗に浮き出てきて、たしかに蛇紋岩であることが判明した。この石は、今後机上の文鎮として私の心をなごませてくれるものと思う。

第二日目には毛越寺と中尊寺を拝観。新聞などに度々報道されているが、毛越寺庭園では曲水の流れ跡が発掘復元されつつあった。そのため現在は水は流れていないが現状でも枯れ山水としての見事な面影がしのばれた。

この毛越寺には、藤原三代が都

の雅びやかな文化にあやかっ、龍頭・げき首の舟を浮べた池があるが、後世に小堀遠州が造った庭園より大らかな趣に満ちていた。

中尊寺では、金色堂(国宝)の華麗さより、八百年記念行事として今回特に開帳された一宇金輪像(重要文化財)のなごやかさの方が私には印象に残り、しばし仏像の前から立ち去るにしのびない程であった。二日目の午後は九州太宰府と同格の奥州の鎮守府である多賀城址と付随する一群の遺跡と松島瑞巖寺を豪雨中に見物した。

この瑞巖寺の寺の華麗重厚さは一つにはこの寺が伊達藩の城砦となり得るように設計されていたからであり、嘗て参拝した時の次の説明が思い出される。すなわち、(1)参道の粘板岩製の石畳(約四尺×二尺×三寸)は非常の際には掘り起し並べられて楯に使われる。(2)本殿の床は三寸位の厚さの堅木である。

(3)庫裏(国宝)の屋根上にある煙出しは、物見台として正門の方向を見通しうようにしてある。

帰路、娘のために、石畳と同じ材質の、雄勝(金華山北方約三十軒)で生産された粘板岩製の雄勝硯(雨畑硯とも言われる)を購入。

第三日は山形県山寺にある立石

寺を詣でる。千二百段の急坂を登り、芭蕉の「閑けさや岩にしみ入る蟬の声」の心境に浸った。午後には東北地方有数の大ききと言われる雷神山古墳(名取市)を見る。

前方後円墳の後円部が大きく、堅穴式であるので相当古いものであることが想像される。しかし被葬者については未詳である。

(徳永悠久)

五四期

回想

学業を卒えて以来続けた会社生活も退き、最近では日本棋院で色々な人と頭脳の訓練にいらして、折角の機会に大変動の時代を生きて来た世代として私なりの強烈な印象をうけた事につき書いてみます。

中学時代——支那事変の最中で田上部隊の出陣、連隊長の白刃、白いサランをまきつけた銃が印象的でした。そして間もなく迎えた多数の遺骨。南京陥落の提灯行列、

走馬灯のように目に浮かびます。大学時代——ノモンハン事変を反映して教練のとき行われたタコツボから火焰瓶を戦車に投げる訓練はまことに生命の危機を予感させた。昭和十八年学徒徴集のとき入営前日興津の山に登り駿河湾を眺め、これが見納めと覚悟をきめたこと。

軍隊生活——体があまり頑健でもない私が、馬の野戦重砲連隊に入り、あまりに辛い訓練から死を覚悟して航空隊に転科したが、これが戦後まで生き残る運を開いた動きとなった。航空隊に入ってからにはあちらこちらと流され、ある

ときは一緒に働いた仲間がフィリッピンへあるいは満州へと流れたが、私は幸い南九州の鹿屋基地でとどまった。

戦後——戦後アルバイトとしてマッカーサー司令部で検閲の仕事に従事し、現行憲法の下では想像もできない信書の検閲翻訳の仕事をした。司令部としては、このような方法で進駐した日本の国民の考えと経済の実態を把握するの一助としていたものと思われまふ。また司令部でのダンスパーティーは、戦時教育をうけてきた若者にとっては、刺激の多いものでありまふた。



(静中時代の筆者)



(新装なった駅前にての近影)

会社生活——色々あったがとくに印象に残ったのは日本生産性本部の経営視察団に加わり、米国の社会をじっくり視察したこと。生産性本部が米国人の生活を理解させるため地方の街(イリノイ州)のお金持の家庭、中流家庭、農家にホームステイさせてくれたが、さすがにお金持の生活は日本人にとって夢のような豪華さ。中流家庭・農家の生活でも、とくに、住宅の大きさ、庭の広さなど、また、お客を招いてのパーティーなど米国の地方の街の生活の豊かさが印象的でありました。

近況——妻をガンで失ったこ

と。ガンは現在も医学界の宿題となつていますが、妻の場合は、予想もされない部位にガンがひそんでいたため首のリンパ腺に徴候が出たときは既に手遅れ。医者からあと三ヶ月ですと宣告されたときはショックでした。娘達も世帯をもつし、私としても体のつくく限り国内・国外のカメラ紀行、囲碁などのんびり過ごす予定です。

(大藤直久)

大藤直久君とは二年生の時、同じ級だったと覚えてゐる。

教練の時間、小林ブーさんが彼を最前に行っているのを何故だと思つていたが、先日原稿を戴いた御礼を言った折に当時の事を訊ねたら、「父が浜松の司令官だったから知つていたのだらう」との事だった。そのお父さんも昭和二十三年に亡なられた由である。

慶応を出てから昭和電工に入社されたが、出向で大成ポリマーに移られ、現在は退職された。関東同窓会総会では一時言葉を交すだけなので、一度ゆっくり静中時代を語つてみたい。(庵原記)

五五期

同じ道をもう一度

雇われ社長(東洋火災海上保険)を辞めて四ヶ月たった。胃が痛く

なることも全然なくなつた。三期半、可成り長かった。経営が苦しかったので正直の所大變だった。組合との団交で徹夜が続き、時には体力の限界も超えていたし、出すべきものも出せないのは経営の責任、と責められるのも、本当に苦しかった。

「人生、もう一度同じ道をやれ」と言われて、やりたくないのは社長と軍隊時代。この二つには奇妙に共通点が多い。其の一つは、自信が無かつたのに、まずまず結果オーライであつたことだ。しかし自信の無いこと二度とやるものではないよ。

昭和十八年暮、学徒徴兵。海軍第四期予備学生、そして、終戦直前に乗艦がP51の銃弾で被弾、重傷。素人の少尉には技術、体力、氣力、指揮能力、すべてに自信が無く、つらい時期だった。暗夜機雷の海の当直士官、自信のないことおびたらしい。責任ばかり重んだから、命張つたつて足りやしない。

会社の建て直し、金だけが無く、責任だけが重い。

艦の時は、最初に負傷したので結果は死なずに済んだ。第二波の攻撃で戦死多数。

会社の場合、優秀な人に譲れて

企業の不活性化が防げた。

中学卒業以来の旧友の何人かに再会出来たのは、横須賀海兵団と予備学生期間、苦しい時代だったが、そこだけが懐かしい所だ。

さて、人生同じ道をもう一度、と言われて選べるのは、静岡中学時代と幼少年期だ。父の任地の都合で、静岡で小・中学を過ごしたが、第二の故郷である。時々、静中の旧友と会合出来るが、中には小学校(城内)からの連中も若干居る。奇妙に昔と同じ顔をして居るのも愉快だ。目立った存在では全然無かつたのに、もう一度同じことをやつても良いと考えるのはやはり当時は両親が健在で楽しい家庭だったからかもしれない。

卒業後、全然学校に連絡をしなかつたので、私の名前以外は名簿でブランク。私を発見して登録してくれたのは夏目君だ。彼は小学校も同じ。同業の誼で会うことが出来た(彼「静銀、私「浜銀」)。二十数年ぶりだった。

会社には、週三回顔を出す。

「其の後どうですか」「いや全然駄目です」「お暇になつたので上手くなつたでしょう」「相変わらず飛ばなくて」「でも一〇〇は切つてゐるんでしょ」「ああ、愈々一〇〇が自信の基準線か。私も今や

目線を変えねばならなくなつた様だ。

それでも発奮して今年には三ヶ所のゴルフクラブのシニア選手権試合に挑戦して見た。然し、すべて予選落ち。折角次の日曜日を二回戦に備えて空けておいたのに「以降出社に及ばず」か。

来年はそれでも氣力、体力立て直し、再度挑戦のつもり。

「結果オーライ、もう一度やれ」

(小田原市居住 中田千東)

五九期

日本の川・中国の川

はじめて日本を旅した中国のひとが、瀬戸内海を見て、日本にも意外と大きな河があるではないかと言つたと伝えられている。中国第一位の長江の流域面積は一八〇万平方キロ、日本の国土の五倍もある。その長さは六一〇〇キロで、北海道の稚内から九州の鹿児島まで往復してもまだ足りない。

中国の治水の祖といわれる禹は約四千年前に黄河治水に成功して夏の始祖となつた。中国には常冬の黒竜江省北部から常夏の海南島まで、華南の多雨のモンスーン地帯からシルクロード沿いの砂漠まで、さまざまな風土、すなわちさまざまな川がある。しかも、そ

の多様な川に四千年の治水の貴重な経験の蓄積がある。まさに中国は治水体験について、世界の宝庫である。

日本も登呂遺跡に河川工事の跡が発見されたように、弥生時代から洪水に悩まされながらもこれと闘い、比較的狭い国土に密な開発を行つてきた。特に明治以後、また第二次世界大戦後の国土開発、それを可能ならしめた特有にして緻密な治水は、他の国に例を見ない。おかげで、日本の川ほど人工化されたものは諸外国にはない。この特殊な治水経験をもつて、隣接した両国の、これからの治水技術協力の在り方、これからの治水と国土開発の関係について、両国を比較し、それを試論として紹介する。(高橋 裕)

六〇期

卒業四〇周年記念誌完成!

昭和二〇年四月一二日、私は動員先である三菱静岡工場の正門を少し入つたところに、忽然としてできた直径一〇メートル、深さ七、八メートルにも及ぶ巨大な穴を呆然とみつめていた。

前日、B29がこの航空用発動機工場に落した一トン爆弾の爆裂跡である。そこは、昨日まで旋盤やボール盤などが昼夜をおかず忙しく動き、カーキ色の作業服を着た

徴用工や各学校の校章の入った戦斗帽をかぶったわれわれ動員生徒が、機械のはき出す削り鉄粉の焦げくさい匂いに辟易しながら作業をしていたところであった。

その破壊された跡は、いい知れぬ絶望感と恐怖心を抱かせるに十分であった。「死傷者なし」は全く奇跡であった……。

卒業式はどこで、卒業証書はもらったのかどうか、卒業記念の集合写真は？……それらは永いこと私が思い出そうとしても脳裡に浮かんでこないもので、記憶の中の空白といえる部分であった。

戦災により学籍簿なども焼けてしまったことから、われわれ六〇期生がはたして静中の門をくぐったかどうかは、一部の先生の記憶と同期生の証言だけに頼るしかないとは、何とも情ない話である。

昭和三〇年代に作られた静中・静高の同窓会名簿を見ても、他の期がかなり埋まっているのに、六〇期の消息欄だけは白い空間がやけに目立ち、たまに開かれた三〇人前後の同期会でも「俺たちの静中時代とは何だっただろう」などと空しいため息の出るようなシラケタ雰囲気があった。

め、ここ数年、ほぼ隔年に開かれている同期会の参加人員もようやく五〇人台に乗ってきた。また住所のわかつている者だけでも一八〇人位になった。

戦後三十数年を経過した頃から各期の中熟年の間に、卒業記念誌を作る動きが出て来たが、われわれ六〇期がそれを作るとなると、写真など資料が乏しく、とても無理だろうという意見が大勢であった。ところが先輩や後輩が作られた記念誌を見ているうちに、誰からともなく「写真など何もないわれわれこそが記念アルバムを一番必要としているのだ、やるだけやってみよう」という声があがった。

六〇年秋に開かれた同期会で作成が本決まりとなり、編集委員も出揃って、まず全国に散らばっている同期生に対して、交換写真や部活の写真などとともに、当時の思い出話など提供するよう依頼が始まった。

作業は六〇年暮から六一年六月いっぱい、概ね隔週の土曜日に静岡市内の岡村建築設計事務所（同期生）の二階を借りて行われたが予想に反して写真や原稿の集まりが良く、誌面の都合で整理を余儀なくされる程であった。

写真の中には「これは一枚しかない貴重なものだから使用後は必ず返してください」と、アルバムからはがしたばかりのやや変色しているものもあったほか、「昔の写真は全部焼失しているの、現在のものをのせて欲しい」とのこと、でアルバムの中の紅顔の美少年に混って初老の写真が散見されているのも愛嬌であった。

印刷、製本はすべて同期の塩坂君が家業の写真製版印刷所の業務のひとつとして、出血覚悟で請けてくれたが、予想以上の売れ行き（一六〇部）で、彼に若干プラスアルファを支払い得たことは望外の喜びであった。

ともあれ、これで今まで記念になるものが何ひとつなかったわれわれ六〇期に、ようやく共通の話題としての材料が提供できたことは嬉しい限りである。

なお、現静高教諭に同期の杉山茂樹君（同窓会担当）と長野純明君（資料室担当）がおられ、ともに編集委員として学校資料の提供などに便宜を図っていたいたこととは僥倖であった。また故西田先生・故下野先生の奥様方から玉稿をいただいたことに心からお礼を申し上げる次第である。

昭和六二年中には、われわれ全

員が六〇歳になる。

人生にとってひとつの区切りであるが、昭和一五年から二〇年までの静中時代は、日本の歴史を変えてしまったほどの異常な時期であり、個々のエピソードはともかく、絶対に忘れ得ない一刻である。ともすれば風化し勝ちな記憶をこの四〇周年記念誌は鮮やかに昔に戻してくれている。

六四期

（佐藤祐信）

大仁CCで、新橋亭で等々

十月十日、金木犀の甘い匂いが庭一杯たよう。六六期安田氏の厚意で、今年も同期のゴルフ大会が伊豆大仁カンパリー倶楽部で開催された。今年の幹事を静岡の秋山、石原両君が担当し、賞品も多くバーティ代も安く、大勢の友へ連絡して呉れた。その労が実り、静岡より九名、東京十三名、大阪一名と二三名の友がクラブを振った。

天候は雨との予報だったが、皆の気持が天に通じたのか薄曇り、絶好のコンディションだったがスコアの方は意外に良くなかった。だが各組とも和気あいあい賑かに腹の底から笑う一日を過ごした。優勝は特別参加の六一期大石先輩、三回目で見事金星を射止められた。初参加、河村勉、加納正司、

佐野旭、井田寛君。ベスグロは伊藤剛君、晴えあるブービーはゴルフ歴三〇年の岩本吉雄君。敢斗賞名波君、大波賞は大阪より遠路かけつけてくれた神谷君。ニアピン二個とった渡辺宏一君、精進いちじるしい渡辺素夫君惜しくも同率だったが四位。ドラコンは稲森・風間両君へ。堅実な永田・浅井・倉田君。仕事に熱中の村上喜代二君。前回優勝の村上幸之君は急病入院のため欠席。二位三位の塚本・秋山君は振はず、運転疲れか、山本光夫・望月担君も今一つだった。

七月七日七夕、新橋駅前新橋亭で年一回の同期会を行った。特別ゲストに六九期の松島・神谷女史、静岡の大原規夫君を含め三三名の友が多忙の中三八年前に逆戻り、静岡弁で語り合った。

例によって同窓会は記憶力抜群、ジョーク満点の渡辺君で行われ、静岡より近藤昭蔵・山下啓也・秋山義明君等が見え、前日行われた参院選での藤田栄君の奮斗の実態と支援に感謝する御礼が述べられた。

四月十一日花曇り。同期の藤田君を参院再選励ます会を、杉本哲・鈴木明郎・名波君の発案でホテルニューオータニ、アルカンシェルにて朝食会を持った。

五九期の木宮氏の立候補によって情勢が非常に厳しいとの事で、

同期生として何とか元気づけてやりたい、そんな気持ちから活発な発言あり、大いに彼を激励し、その場で数十万円の資金をカンパした。八木綱三、益頭尚文、山本和彦、塚本光彦、栗田行雄、永田進一、岩本吉雄、増田誠男、加藤満馬場泰男君等出席。

「同期生の中に、今迄も又これからも議員になる可能性のある友が居ないのだから藤田を再選させたい」という望月担君の言葉が印象的だった。結果は御高承の通り、友人として刀折れ矢尽きる迄応援協力しえなかった事を残念に思う昭和六十一年であった。

(野沢正憲)

六七期

大リーグ中継の思い出

大リーグ・ナショナルリーグは毎年オハイオ州シンシナティで開幕する。ここが初のプロ球団が誕生したゆかりの地だからだ。

一九七八年四月六日、シンシナティ・リバーフロントスタジアム三階の放送席、この年フジテレビが画期的な企画として大々的にぶちあげた大リーグ実況放送の幕あけを目前に、私は緊張と興奮でどうにも落ちつかない。どんよりとしたくもり空、スタンドは満員のファンをのみ込んでいる。その中

には、側面からPRに協力してもらうため招待した日本の新聞記者二十数人もいる。

開幕戦のレッズ対アストロズは二時半に始まった。ゲームは想像を絶する程エキサイティングな展開になった。願ってもないすばらしい放送になるとはととしたものつかの間、何と途中豪雨でゲームは中断、もしこのままノーゲームにでもなれば、九日に予定している一回目の放送はオジャン。不安と焦燥が頭の中でうずを巻いているのが自分でよく分る。

手筈はこうだった。この日現場で収録したVTRテープは、ニューヨークから応援に来てくれた特派員が夕方の飛行便でもち帰り、翌七日(アメリカ)CBSから衛星で日本(八日)に送り、九日に放送する。ノーゲームになれば準備した全てが文字通り水泡に帰してしまふ。

字数の都合上結果を書く、とにかくゲームは成立した。二回にわたる長時間の中断で終了したのは午後八時前、日本なら100%中止の危い橋だった。このあと、ダラス、ヒューストンと放送を続け帰国したらずぐ五月にニューヨーク転勤を命じられ、私は二年間どっぷりと大リーグ放送に浸かってい

った。

よく、大リーグと日本の野球との違いについて聞かれるが、スピード、パワーといった野球の質は当然のこととして一番大きな違いは球場の雰囲気だと私はこたえていた。大リーグはグラウンドだけでは成り立たない。スタンドのファンと渾然一体となつてかもし出す明るく陽気で開放的な雰囲気、ズバリいってこれが大リーグだ。

数年前、初めて日本のプロ野球を見たアメリカから来た友人がこんなことをいった。球場へ行つて驚いたことが三つある。一つは陽気なビーナッツ売りがいいこと、二つ目はグラウンドに背を向けて観客に応援を強制しているリリーダーがいること、三つ目は女性が少ないこと。選手の数、試合の内容についての感想はさておいて、というのが実におもしろい見方だと思つたことを憶えている。

グラウンドでの大リーグは、ファイトをむき出しにしてプレーする。それはゲームと呼ぶよりも戦いといった方がふさわしい光景だ。大リーグを支えているものの、それは旺盛な斗争心と強烈なプライドといえはいいのだろうか。

アメリカ人の仕事ぶりは、一言でいえば「分を守る」ということになろうか。現地実況放送だから本社から出張で来ているディレクター、アナウンサー以外はこの球

場へ行つてもあちらのスタッフ。これらの一人一人が自分の仕事以外に絶対に口を出さない。放送席のモニターテレビが不調なので隣にいるオーディエスマンに調整を頼むとスーパードライザー(私達と放送局の窓口になっている人)がV

E(映像調整の技術者)に言つてくれ、それは俺の仕事ではない、と一切手を出さない。はじめは随分戸惑つたが慣れてくると、悪気ではないそれが彼らの仕事のシステムなのだと分ってくる。それと、私生活を大切にすればは自宅の電話番号は決して教えてくれない。本社からは土曜だろうと日曜だろうとかまわず注文がくる。コーディネーターとして連絡をと

りたくても全くお手あげ。休日に仕事のことでも自宅に電話をかけてくるなど彼らからすれば失礼この上ないということになる。この種のイライラに慣れるまでに一年かかった。ヤンキースタジアムの係員はどんなに顔なじみになつても記者証を見せなければ決して中に入れてくれなかった。

書き出してみると八年前のことがあれやこれや昨日のことのように甦ってくる。

本ものは絶対に成功すると信じて続けてきた大リーグ放送も、昨年のワールドシリーズを最後に打ち切りとなつてしまった。今年のワールドシリーズはどうなるのだから。

う。メッツかレッドソックスか。今、シニスタジアムが、フェンウェイパーク(ボストン)が、懐かしい。

(十月十八日 鳥居滋夫)

六八期

私はツカファン

会報20号の同期会だよりを読んでいたら、66期の方のお嬢さんがタカラジェンヌであることを知り「ホウ!」と思つたことがある。

その後同期会で、陸上競技の猛者で硬派で鳴らした植田勇夫君がツカファンであることを知り、「ヘエ!」と思い、意外に男性の宝塚ファンが多いことをあらためて知った。

すみれの花咲く頃
初めて君を知りぬ
君を思い日毎夜毎
悩みしあの日の頃
.....

これは宝塚ファンならば誰でもが歌い知っている、宝塚というファンタジックな国の「国歌」であるといえよう。この国歌にひかれて私が「ツカファン」になったのは今から30年以上も前のことである。親友から宝塚の観劇をさそわれて行つたのがウンのつき。宝塚の魅力にとりつかれて今日に至り、「いい年をしてまだ宝塚ですか」

などと周囲からひやかされながらも今月も宝塚を見に行ったのであるから、ワレながらアキレタものである。

いや、どうしてどうして「今でも年甲斐もなく公演毎に機会があれば出かけるんです」という挨拶が何の抵抗もなくスラスラであるから、まったくイイ調子である。

しかし少女趣味と罵られようとも、クササレようとクジけず、日頃の仕事からの解放感にのびのびして、ストレスの解消にも十分役立て、心楽しい童心の一刻を過ぎそうと宝塚の観劇に出かけるのである。若い頃は切符を買うために列をつくって並んでいる間に、同じツカファンというよしみもあって恋も芽生えたこともあったが、近頃では「お孫さんのために並んでいるのですか」などと聞かれてすっかりショボクレてしまうのが昨今の私である。

さて私が何んで宝塚が好きになったかというところ、宝塚の男役を中心とした明るい笑いのある上品な甘酸い舞台、カラフルで艶やかなムードの舞台、また時としては何十人かの女性の体が鋼のように強靱で凄まじいリズムとなつてグワーンとぶつてくるような舞台

にひかれたからだと思う。

もつとも、宝塚をよく知らない人達は、女性だけの劇団というところに、ひ弱さ、頼りなさを感じた女性が男性を演ずることの不自然さに無意識のうちに嫌悪感をもつらしい。だが宝塚の男役は、歌舞伎や新派の女形と同じように、演劇という虚構の内許され得る約束事であつて、決して不自然なものではない。一方、ひ弱さ、頼りなさを指摘されるむきの方は、女性党首が生れる時代であることを思い出していたら、そんな懸念は天空の彼方へフットンでしまふ。

彼女達は毎日、歌に踊りに演技に猛烈な稽古、稽古の明けくれと聞く。それだけにそのひたむきな舞台に魅力を感じるのである。ことに宝塚で歌われる歌には俗っぽい流行歌とは異質な、悲しみや苦しみを忘れさせる、いわゆる心を酔わせる歌が多いし、その多くは一度メロディを聞いたらずさみたくなるものばかりである。私が歌を歌う時には国歌「すみれの花咲く頃」を始め、宝塚で歌われた歌が非常に多い。

最後に私の好きなタカラジェンヌについて一言。
内重のぼる、郷ちぐさ、竹生沙

由里、大地真央などいずれも美人でダンスの名手であるが、残念なことに全員もう宝塚の舞台に立っていない。現在のタカラジェンヌ達の内には、特定の好きな人ははいない。それは私が宝塚全体を愛するようになったからだろうと思つてゐる。

ところで皆さん方、一度宝塚を見にいらっしゃいませんか。本当に楽しいですよ。(雨宮明生)

七四期

上善は水の若し

「上善は水の若し」という「老子」のことばがある。私はこのことばが大好きである。

「水はよく万物を潤して、多大の恩恵を与えるが、それでいて高きを競うこともなく、むしろ人のいやがる低湿の地に安んじている」人間として「道」を求める教訓かと思う。

私はふとしたことから東京に静岡県人会なるものがあることを知り、入会した。丁度その頃に、県人会の人から静岡・静岡東同窓会があると知らされた。どこに連絡をとればよいのかと思つていたところ、七四期生の佐藤鐘司君から連絡先を教えられ、メンバーの一員に加えていただいた。

卒業後三十年近くなり、そろそろ五十路坂に向い、「人生五十年……」といわれた昔であれば……と思うと一抹のさびしさを感じさせられる年代になったわけで、そんな時、自分の青春時代はどうであったかと、ふと「思い出」を語りあう「時」と「場」がほしいと感じるようになった。こんな時、同窓会で諸先輩との懇親の機会を通じて、親睦の輪をひろげ「心」の温かさに浸ることが出来る時、幸せと青春の夢を垣間見ることが出来るわけである。

冒頭のことばではないが、まさに、先輩とは「上善は水の若し」であり、先輩の温かさにふれ、また我々が次の後輩に、責任をもつて、うけ渡すことが必要かと感じている昨今である。

関東同窓会も発足して十一年、今回たまたま七四期生の幹事役を仰せつかり、私自身としても、この同窓会がますます盛大になるよう頑張りたいと思う。七四期生、あつまれ！
(藤原経史)

七五期

橋にし ひがし

江戸八百八町に対し、浪速の八百八橋と言われるほど大阪は橋の数も多く歴史もある(もつともこ

の数は明治大正期)。文獻に残されている最古の橋は小野町の歌にあり、書紀によれば大阪市猪飼野にあったと言われる猪甘津橋か。大阪の橋と言えは大阪城築城後であらう。外堀としての又舟運として東横堀川が開削され高麗との貿易で栄えたこの地に高麗橋が架られたのもこの頃か。この橋は明治三年に初めてイギリスから輸入された鉄橋となった。浪速の三大名橋と呼ばれるものに難波橋、天満橋があり、やはり豊臣の世に再建され今日に残っているものに天神橋がある。天下の台所として全国経済の中心として栄えた大阪の豪商淀屋が架けた淀屋橋。そのすぐ近く新築なった大阪市庁舎と中之島一帯の橋梁群は都市美の独特さを誇っている。それでは古くからの著名橋を探してみよう。

「風も吹かんのにゆらゆら」と歌われた祖谷のかずら橋、高校野球で名を馳せた徳島県池田から、あるいは大歩危駅から小一時間、以前は九橋あつたという祖谷川のかずら橋も現在は観光用に一橋が保存されるだけとなった。古くは甲斐の猿橋が橋梁技術上からもそのネーミングからしても特筆か。おもしろい話として百済の帰化人が切りたつた断崖への架橋に頭をかかえていたとき野猿の群が手を結んで鎖状になつて谷を渡つていく様子をみて思いついた架設

工法による橋との話もある。橋に
としての脅威は何んと言つても風
水害、そこで強固な橋を造る材料
と工法の発達をみるのであるが、
最初から自然に逆らわず、柳に風
とうけながす工夫がなされたもの
にもぐり橋がある。これは水嵩が
増せば水面から姿を消すほど橋の
高さを低くおさえ流れを阻害させ
ない方法である。

似たものに京都府の木津川に架
つてゐる木造の上津屋橋がある。
この橋は増水するとワイヤーに繋
がった桁が流れて、水がひいたら
架け直す。木造と言えば岩国の錦
帯橋を忘れることは出来ない。径
間三十五・一米の木造アーチは世
界最大級である。変わつて石造
りの橋としては江戸時代初期、長
崎の眼鏡橋が最も古いものでし
う。平戸に居留していたオランダ
人の屋敷窓の製作に携わつた石工
の力があつたとか。

東京で古いのは明治初の万世
橋、それからやはり九州の石工の
伝統技術による二重橋もあげられ
る。東京で大阪の中之島に対比す
るとすればやはり関東大震災後の
帝都復興計画で一新した隅田川の
十倉橋でしょう。当時の架橋当局
者は世界各国から名橋のサンプル
を集めてこの計画の参考としたと
のこと。春のうららの隅田川と親
しまれ、澄んだ川の転訛したとも
言われるこの川も水質汚濁に苦し

んでいるが、花火大会、早慶レガ
ッタと再び都民に結びつきを深
め、東京都も勝岡橋から千住大橋
の間、著名橋の整備に力を注ぐら
しい。

向島七福神の一つである白鬚神
社に由来する白鬚橋、橋のたもと
の駒形堂から呼ばれた駒形橋、幕
府の馬小屋があつて橋の名前の由
来となつた厩橋（昭和三年弊社製
造）、同じく江戸幕府の御米蔵が
近くにあつた蔵前橋、五代將軍綱
吉の五十才を記念したとも言われ
る永代橋、旅順陥落から名が継承
された勝岡橋、これらの橋は都民
に一層親しまれるべく色調、高欄、
舗装等に一段と工夫がなされるこ
とでしよう。昨年見た欧州、特に
西独ライン川畔の景観には魅せら
れた。近年我国でも本四架橋を含
めて長大橋が数多く建設され、材
料、工法共技術的には世界有数の
水準であると思われる。これを更
に一步すすめて、橋の建設が環境と
の変化と調和かつ都市景観の創造
へと将来への資産となすべく一営
業マンとして思う日々である。

（稲葉辰馬 日本鋼管
（株）構造営業部勤務）

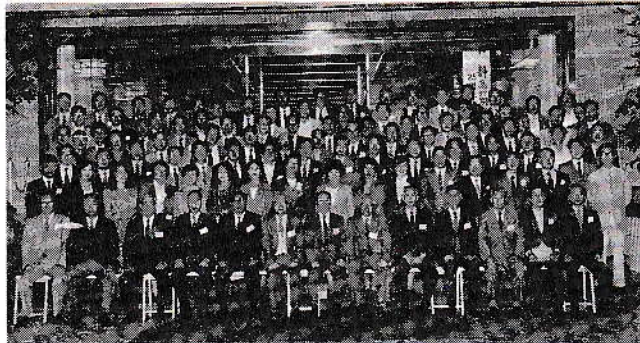
七 七 期

二十五周年記念同期会

去る十月十八日、静高七七期の
同期会が卒業二十五周年を記念し
て静岡で開かれました。折しも私

達の親しんだ学舎が改築で姿を消
してしまふという時にも重なり、
まずは学校に集まつて思い出の写
真を残そうということになりました。

約束の午後三時、三々五々と集



内を見学することができました。
化学・物理の実験室や保健室、売
店が昔のままの場所にあることに
皆から歓声があがりました。思い
出の教室の、自分が座つていたあ
たりの席で記念撮影をする者、移
動教室の思い出を語りあう者。な
ごりはつきませんでした。学校
をあとにパーティの会場に場所を
移しました。

記念パーティは焼津グランドホ
テル中島屋が会場。六時の開会に
先立つてホテルの玄関で「記念撮
影。百余名は壮観でした。パーティ
の司会は望月浩君と天野一君。
冒頭すでに他界してしまつた仲
間（池谷忍さん、土屋勝治君、大
棟潔君、大村紀雄君、朝川昌彦君
おそらくこの五名だと思います）
に哀悼の意を表して校歌をバック
に黙禱をささげました。

代表幹事花村征三郎君をはじめ
とする静岡在住の幹事諸君の尽力
でパーティの方も大盛会で、HR
ごとの席に仲間も入れかわり立ち
かわりと思ひ出話、近況にと話に
花をさかせました。

お世話になつた先生方もHRの
担任であつた伊井、増田、谷口、小
泉、吉川、本多の各先生の他に、教
頭であつた北川先生、野球部監督
であつた田口先生、現在静岡県教

育長である世界史の三浦先生、体
育の斉藤先生と十名もご参加下さ
り、本当になつかしい思いをしま
した。すでに現役を引退される年
令になられていられるのに、若々
しく、お元氣な姿にびっくりもし
ました。私達も当時の先生方の年
令を越えてしまつてゐるわけで、
感慨もひとしおでした。

パーティには遅れてかけつけた
仲間もあつて、総勢百三十余名が
参加。関東支部の同期会（七夕会）
からも四〇名を越える仲間がはせ
参じてくれました。百三十名とい
えば全学年の三分の一です。す
とにかく大盛会だったと言えら
れます。なにしろ卒業の年が甲
子園で準優勝の年ですから今でも
まともにはよく、当時の応援団の
リーダーであつた天野君、内野
君、羽生君などのリードで歌つた
校歌、追遙歌、応援歌も迫力に満
ちたもので、会場に余韻を残すほ
どでした。

先生方からご挨拶をいただいた
あと、一人ずつ一言ずつの紹介で
パーティも終りに近づきました。
最後に関東支部七夕会を代表して
加藤重信君が閉会の挨拶に立ち、
また五年後に三十年を記念して、
もっと盛大に集まろうとしめく
りました。

パーティーから二次会に流れて、またまた、ここでも大賑わい。女性陣十名を含めて、広間に座り込んで話がつづきました。九時半すぎに二次会もお開きになりましたが、つるも話も尽きないので、ホテルの部屋へ戻って遅くまで話込む者、静岡・焼津の夜の巷に繰り出す者と、四次会、五次会までの剛の者もいて、大騒ぎでした。翌日は朝食後、現地解散。ゴルフ組は二十二名で菊川カントリークラブに向ったとのことでした。最後に、幹事の皆さん、本当にご苦労様でした。(杉山 武)

八〇期

同期会報告

今年の静岡80期関東地区同期会は9月27日(土)内幸町の日本プレスセンタービル内記者クラブの一室を拝借して開催されました。出席者は24名。現在連絡が取れる同期生は首都圏に約80名いますので、もう少し多くの友人の参加を期待していたのですが、だいたい例年通りの人数でした。80期生も40〜41才と公私ともに多忙な年代であり、参加できない人が多いのも、皆さん頑張っているというところかも知れません。

今年で6回目の同期会を迎え、

回を重ねる毎に同期生相互の親睦は益々深まり、この会を機会に公私に交友の輪が拡がり、同期会の人脈が思わぬところで役に立っているようです。

会の進行は例年のとおり、しばし酒盃を傾け歓談の後、恒例の近況報告で座は盛り上がり、積る話に時の経つのを忘れていたうちに閉会の時間となりました。最後に校歌斉唱とエールで締めくくり、三々五々二次会へ、あるいは帰宅の途につきました。

なお80期同期会事務局は霞ヶ関法律事務所の秋山幹男氏(電話03-4311-8391)にお願いしてありますので、異動がありましたら秋山氏まで御連絡下さい。それから静岡の牧野聖修氏、衆院選残念でした。次回の健闘を同期生一同祈っております。久々に出席してくれた共同通信社の横山立氏はまたまた政情不安な南ア連邦に近日赴任するそうです。くれぐれも身体に気を付けて、また東京で無事再会できることを楽しみにしています。

最後に紙面をお借りしまして、会場の手配に御助力を賜りました朝日新聞社の富永久雄先輩(75期)に深謝いたします。(松浦正明)

八四期

私の近況報告

ニューヨーク・メッツが優勝したと言うニュースが流れた時、私は東京のオフィスですぐデビィーの大喜びの顔を思い浮べた。彼女は私が今年前半ニューヨークに滞在した時のアシスタントで大のメッツファン。私は今の仕事(商社)で十四年目になり、アメリカへは何回も出張したが、半年間マンハッタンに居たのは今回が初めての経験だった。

一番街・八十丁目にアパートを借り朝は地下鉄で通勤、帰りは主にタクシード帰った(夜八時以降は地下鉄は危ないとの事)。交通機関の良し悪しが都市の住み心地を左右すると思うが、マンハッタンの地下鉄も大変混む。と言っても東京と違うのは入口付近の人が絶対に奥へ詰めない。だから入口の辺がやたら混んではすいていく。ある朝私は入口の方から押されて奥の方へ押し込まれた。従ってラッシュ時にはブラットホームに残される人が多い。でも彼らは黙々と二、三台は待つ。

残業が多かったので一人で夜遅くタクシードつかまえる事がよくあったが、そんな帰りに一度路上で襲われた。黒人二人がすれちがいざまにアタッシュを奪おうとし

てもみ合いになったが、幸い一ブロック先から別のアメリカ人が助太刀に来て呉れて大声で叫んだため、黒人二人は逃走し事無きを得た。ほっと胸をなでおろしたが、逆の立場の時、自分が人助けをする勇氣があるかと自問すると心もとなくなる。

私がつきあったアメリカ人はよく「フエアであるか?」と言う言葉を使った。様々な人種が流れ込んでいるアメリカのベースの考え方なのかも知れぬ。マンハッタンで昼食時にレストランに入れば、あちらのテーブルはイタリア語、こちらのテーブルは中国語、日本語、スペイン語、皆、母国語で昼食時のおしゃべりを楽しんでいる。これらの人々が各々生活し利害がからんで来るのだから大変だし、又、ここにアメリカの活力の源泉があるのかも知れない。

私の滞在は主にテネシー州でのプロジェクト推進が今回の目的だった。幾人かのアメリカ人とも懇意になりアメリカで原料開発し日本へ輸入するビジネスは、折りからの円高の追い風もあり順調であるが、過去は紆余曲折の連続だった。

どうか乗り越えて来たのは友人の力に依るところが大きい。最近特に、自分と違う畑を歩いてこられた人と話すと啓示を受けるところ大である。同窓の皆様とも

今後折にふれ旧交を温めてゆきたいと心から念じております。

(鈴木正利)

一〇〇期

高校野球異聞八江川卓と静岡▽東京読売巨人軍の大黒柱となっている江川卓投手が、かつて静岡県に住んでいて、静岡に入るチャンスがあったことを知る人は少ないかと思う。

江川は昭和三〇年に福島県いわき市で生まれた。その約十年後に静岡県は佐久間町に移り、中学二年の時に栃木県小山市に行った。その後、作新学院高等部、法政大学そして巨人軍で常にスターであり続けている。

もう一年、即ち中学卒業まで佐久間にいれば、静岡に入ることが出来たかもしれない。江川は勉強もよく出来た(インタビューを聞けばわかる)。何故中二で小山に引っ越してしまったのか。答えは、古河鉱業に勤めていた父親が好開鉱山の閉山とともに転勤になったからである。

古河がもう一年辛抱すれば、江川は静岡に入っていたかもしれない。では、その「もしも」の場合を考えてみる。

作新時代、江川は三年の春と夏の二度甲子園に出た。春に通算六十奪三振という今も破られていない大記録を作ったが、結局優勝旗

は手に出来なかった。原因はいろいろあるが、最大のものはバックが弱過ぎたことであろう。長距離打者はほとんど江川一人だった。二年の夏には県大会で決勝まで進んだが、九回までノーヒット・ノーランを続けたのに、結局延長で味方のエラーで負けてしまったのである。

江川が静高に入れば、この悩みは一挙に解決される。江川が高三の夏、静高は甲子園に出て、惜しくも準優勝に終わった。広島商業の佃一達川(現広島)のバッテリーにしてやられたのである。

この時の静高ナインは超大型で、永島・植松・水野(巨人の水野雄仁投手の親戚らしい)・白鳥・秋本等々……。このチームを率いておられたのは名将野島譲先生である。もし江川が静高に入れば、かなりの確率で江川は国旗を手にし得ただろう。事実、この年の静高の主力メンバー(そして自動車工業の袴田現ロッチ)と法政に進んだ江川は、苦もなく勝ち続け、四年間で四十七勝(歴代二位)もしている。

しかし、江川が静高に入ってもいい事ばかりではない。まず、静岡は栃木よりも高校の数が多いし(人口は栃木の約二倍)、野球のレベルもずっと高い。江川の高校時代の大会記録(連続百四十五回無失点、完全二を含む通算十二無安

打無得点試合等)は、非力なバックを背にしている緊張感と、木製バット(翌四十九年から金属バット解禁)、そして低い栃木県のレベルが産んだものと言ってよからう。だから甲子園にはなかなか出られなかっただろうし、途方もない記録は作れなかったかもしれない。

それに、江川の巨人入団は、何と言っても、作新学院理事長の故船田中氏の力に依る所が大きい。静高に入っていたら、江川は巨人軍に入っていたかどうかは極めて疑わしい? 古河がもう一年ヤマを閉じるのを我慢していれば、日本の野球史はどう変わっていたかわからない。

では、静高と江川が対決したらどうなったか? 四十八年の団体の準決勝で両者は直接当たっている。この時は零対五で静高が負けた。練習試合のことは知らないが公式戦ではこれだけである。

実は、同年夏の大会では、静高対作新という夢のカードの可能性があった。但し、作新が銚子商業(次回大会の優勝校)に勝っている話である。雨中の激戦だったが、江川は延長十二回裏、一死満塁で押し出しの四球を与え、サヨナラ負けを喫した。もし、この日好天で江川が普通に投げられたなら、夢の対決があったかもしれないのである。なお、静高は準々

決勝で銚子高に辛勝して、江川の仇を取った。

もう一つ、間接対決がある。作新はこの年の春の準決勝で、あの憎き広商に二対二で敗れている。まともに江川に立ち向かったら到底勝ち目はないと踏んだ広商は、重盗で捕手の悪逆球を誘って勝ちを拾った(決勝では敗れた)。そして我が静高は、夏の決勝で広商とぶつかり、又も広商は奇襲(九回裏のサヨナラスクイズ)に成功し、深紅の国旗を奪って行った。この時は江川の仇は取れなかったのである。

こうしてみると、江川と静高が甲子園で出くわせば、いい勝負になったのではないかという気がする。

この花の昭和四十八年、私は小学二年生であつたが、江川の快速球に目を見張り、準決勝して静岡に帰られた静高の先輩達の雄姿に熱狂した。

星霜は移った。江川の右腕は神通力を失い、その後静岡野球部の大活躍はなく、私も大学に入って早三年目になった。嗚呼、歳月は人を待たない。

駄文を書き続けたが、最後に、静高OBとして、野球部と、特に私の大恩師で今は野球部長となられた大下専一先生の御活躍を祈って筆をおきたい。(杉田直樹)

「こえ」

振込用紙通信欄でお寄せ下さいました皆さんの「こえ」です。

42 中嶋 敏

昭和六十二年三月をもって小学生十数年勤務して来た大東文化大学を退くことにしました。この大学は静岡二十三期卒業の漢文学の泰斗竹田復先生が講堂を開いておられたゆかりの大学です。感慨深いものがあります。竹田先生の御長寿を祈ります。

△計報▽竹田 復氏(たけだ・さかえ)大東文化大名教授、元旧制一高、東京教育大、日大各教授、中国文学専攻)昭和61年11月7日心不全のため逝去されました。

43 西沢 純三
静岡卒業が明治41年3月、95歳でした。心からご冥福をお祈り申しあげます。

43 西沢 純三
今年の六月の総会には入院中のため欠席いたしました。幸にして軽度の胃潰瘍だったので二ヶ月程で退院しました。お蔭様で元気で過しております。胃が不調のようにしたら早めに診断されるようにして下さい。

43 坪 晴行
四三期生ですが、昭和二年に四年生で静岡理乙に合格、昭和九年以降医師になり、国立水戸病院に

院長として三十余年勤務して、今は名誉院長をしています。益々元気です。盆栽や農耕に興味をもっています。

43 山村 忠雄

61年度年会費として送金いたしました。吉江君と同様に43期生として取扱っていただいております。よろしく願います。

43 吉江 誠一

七六才。幸い健康に恵まれ、貧乏会社の事業に追われています。マメに立ったり座ったりすること、階段は歩いて登り降りすること、乗物ではなるべく立っていること、食べ物は一と口五十回は噛むこと、冬でも冷水で身体を拭くこと、が私の健康のコツ。但し、いつぼっくり逝くか判りませんが……。

44 中村 満夫

現役の開業医のため、平日は出席出来ないのが実情です。

44 外川 誠

ことしの五月で満七十五才になりました。越しかたを振り返って見て、良くぞ今日まで生き延びたものだ、つくづく友人皆優しい人達に感謝して居ります。どうか皆さん達もお体を大切に、若い人達は精一杯仕事に熱中し、我々生き残りはのんびりやりましょう。

45 大石 清

老後は自分の人生の総決算の時ですから、昨年、仕事は全部止め

で自分の思う様に日々を楽しく余生を過ごしたいと思いましたが、病気が邪魔をして狭心症で入院中です。八十才前は若死にだそうですが、後五、六年頑張りたいと思います。「炎天や 老いても負大とはならじ」 よろしく。

45 石上 稔

昨年迄長男(弁護士)の会計事務を手伝って居ましたが、本年四月同事務を辞し、目下自適の生活を送って居ります。

45 柏木 千秋

総会は欠席がちで申し訳ありませんが、奇数月の同期会にはつとめて出ることにしております。まだ「現役」のつもりです。

45 千葉 保次

クラス会は青春の一駒を呼び醒まさせてくれて、その想い出によって、魂を清めてくれるものである。私達のクラス会は、幹事様のお人柄のお蔭でいつも行きどいたお世話をしていただいて。実に感謝に堪えない。私達の真に魂の恩人と申し上げるにふさわしい。

46 大島 正雄

長く神経痛で苦しみました、漸く完治して、昨今ミニ菜園でトマト茄子キュウリを楽しんでいます。食べ切れないので御近所の方に差上げたり喜んで戴いています。ボケ防止のためビタミンCを大いに飲用、ガンの予防にも大い

に効果あるとかで、名医の発言を求める次第です。

46 久留 武

先日、山本幹夫氏よりお便り拝受、懐しい事でした。小生は子供四人孫六人我々老夫婦計十二名の家族が、まずまずの健康で各々頑張って居りますので喜びの至ります。同窓の皆さんの益々のご健康を心から祈ります。

47 吉見 四郎

小生も本年満七二才。今年は五黄の寅年で張切っています。

47 山村 俊夫

老人性肋膜炎で入院中です。鴨谷博士に何かと御世話になって有難いことと存じて居ります。

50 緑川 俊徳

今尚世田谷で現役で救急病院経営中です。当会の益々の繁栄を祈ります。

51 河瀬 士郎

同窓会費の請求が関東・静岡、あるいは名古屋から、また関西支部よりと二重、三重に参ります。統一して現住所の同窓会支部に払い込めばいいようにして頂けませんか。今回の名簿にも小生の名前は見当りませんでした。

51 森 弘

年をとるにつけ、昔の静岡の生活が益々懐しくなります。

51 田中 賢一

英霊顕彰や軍隊関係十指に余る会に入っていて少々多過ぎますの

で整理致したく、勝手ながら静岡関係は全校のものと同級生のものだけにさせて頂き度く存じます。

52 上林 明

六十一年度会費(二口)お送りいたしますのでよろしく願います。東京には単身ですが、週末は静岡の自宅に帰っております。

54 篠原 範平

元気にやっております。いつも変らぬ御連絡を感謝します。

55 長沢 栄一

職業別会員名簿受領いたしました。この中に小生の名前がありました。その中に「その他」の部に入れてほしい。日本化学工業協会勤務。

56 中村 治郎

名簿をいただき有難うございました。話している相手が同窓の方と分った時はうれいものです。年と共に静岡はかえって近くなるような気持です。

58 田熊 博邦

昨年末より大病を患い未だ本復しておらず、すっかり御無沙汰致し、幹事会にも出席出来ず残念です。米春位には、又元気な姿で目にかかれる事と期待しております。会の御隆昌を祈念致します。

58 沢西 浩

日本能率協会を退職し独立し、経営コンサルタントとして日本全国をうろろしています。六十五才を定年と心得、静岡へ帰り、エーシシュターを目標そうと計画

しています。

59 狩野 和男

毎々お手数をおかけします。前回会費を何時払込んだが判らなくなっていました。取敢えず四口お送りします。宜しく願います。

60 辻村 輝彦

新加入させていただき感謝致しております。今後よろしく御指導の程をお願い申し上げます。

60 柴田 正臣

過日はよんどころない所用があり皆さんにお会いできず残念でした。現在新しい仕事に就いたばかりで何かとあわただしく、その内落ち着いたら是非皆さんの元気な顔を見たいものと楽しみにしています。皆様の御健勝と御多幸を心からお祈りいたします。

60 時田 正康

この四月から長野市に来ています。本県は「さわやか信州」のイメージがびびったりの美しい自然に恵まれています。気象台は善光寺さんのすぐ隣にあります。お参りの節にはどうぞお寄り下さい。(電話)〇二六二一三四一五六一

66 安池 智策

私と同じ旧中四修の奥田平八郎君と連絡がとれました。彼は現在富山大学文学部教授で富山市五艘一七六六の九在住です。電話〇九六四一三三二〇六五です。66期

の諸君によりしくとのこと。私は東京都庁勤務。東大和市に在住二十二年になります。

67 小杉 謙一

今、八月は甲子園で熱球が飛び交っていますが、今年は静岡が出場せず残念です。来年は是非頑張って——と願っております。

70 遠藤 藤弥

此のところ行事が重複して総会に出席できず恐縮に存じます。幹事諸兄に感謝致しております。

マイホーム購入の際ハウスメーカー各社が出品しているモデルハウスを見て現物確認のうえ購入する傾向にあります。新日軽のアルミサッシ、玄関ドアがついているモデルホームは絶対信用がおける家です。紙上をお借りして会員諸兄にPRさせて頂きました。

70 大長 智

会費を出したのか出さないのかわからず、又静岡の方との感がいもあり失礼しているかも知れませんので取りあえず送ります。会費を忘れずに送る良い方法はないものでしょうか。会費と名のつくものだけでも十件以上あるので。

70 西山 信三

職業別の名簿ありがとうございました。いつも幹事役の方々ご苦労様です。最近、総会にも出席する機会が得られませんでした。次回には是非出席したいと思っています。

70 牧野 甫
春のセンバツにはぜひ甲子園出場を楽しみにしております。久しぶりに岳南健児を声高らかに歌いたいのです。

71 曾根 幸一
職業別会員名簿が官公庁公社の欄にありましたが、私の環境設計研究所は民間の建築設計事務所です。なお東京芸術大学の講師もしておりますが、この方なら学校の欄になります。機会があれば、また御訂正お願いいたします。

73 関 悦男
同窓会、今年こそは出席しようと思っていながら、いつも行けなくなってしまう残念です。皆様のご活躍をお祈りします。

73 佐々木勝彦
自分が今何年度の会費を支払っているのか教えて下さい。昨年8月14日に払込みましたが会報の支払者名に記載がないので気にしています。御迷惑をかけていますが、どのくらい遅れているのか連絡して下さい。

(編集部) 全額完納されております。印刷漏れのミスを深くお詫びいたします。

73 深沢 靖男
会報いつも楽しく拝見させて頂いております。事務局の方のご苦勞にお礼を申し上げます。

74 木村 敦
職業別会員名簿ありがとうございます。

ました。ネットワーキングが有用な昨今大いに参考になります。

74 稲葉 一字
今年の同窓会には、仕事とかち合い出席出来ず残念でした。旧友の顔を見ることが、ハンペン・追分羊カンを食べるのが何んともうれしいことです。

77 石山 建一
今年からプリンスホテル野球部の監督になり忙がしい毎日をおくっています。勤務先も西武商事から佛プリンスホテルに移動しました電話四〇六―〇七―一です。合宿所の方は〇四二九―二五―四五一五です。今度の同窓会にはぜひ出席したいと思っております。

89 平川 慶子
初めて連絡を頂きました。今まで支部の存在を知りながらも、どのようにして入会するのかわからずにおりました。新入りですが、よろしくお願い致します。

六一年度会費拠出者

(順不同・敬称略、括弧内の数字は口数、無印は二口)

期別
二八 森鋼平(4)
三一 塚田英夫
三二 岡本敏典
三三 幡野儀作
三五 永野清

三八 石割正、大村秀雄(4)、水上正直

三九 増井四郎

四〇 野崎操一、杉本四朗、伴野三千良

四一 山田栄一、中村安時、三宅泰雄(1)

四二 井出多米夫、岩波信平(5)

田中治、村松直、宮澤次郎、沼津善夫、国分友美、中嶋敏

四三 西沢純三、吉江誠一、小河直人、田崎茂夫、北里良夫、望月孟夫、坪晴行(3)、山村忠雄、倉沢栄吉

四四 白井茂、高橋真一、村井東助(3)、増井三郎、小沼武中村満夫、外川誠、松下清夫(3)

四五 大石清、柏木千秋、草野哲佐野理平、鈴木弥門、田附敏三、堀正治、速水基夫、須山達夫(5)、石上稔、竹下定吉、千葉保次

四六 内山規、田中修三、長浜謙二、久留武(3)、磯塚倫三、青木清明、山本幹夫、大島正雄(4)、一宮弘道、八木健司、角替徳就

四七 今関智吉、片山正二、龜山敏男、杉山栄一、中村豊夫、星野三郎、山上信重、大村

三郎、山村俊夫、土井知恵雄、石川弘光、関口不二夫、吉見四郎、田中達夫

四八 加藤博、近藤希賢(3)、原崎進一、福永正美、伏見賢治郎、日比野悦三、黒水高典、岩崎鑑一、太田正元、河村祥、大橋広世、興津幸四郎、青木香、飯田辰司、鍋田親一、奥山正、堀正典、富谷精一

四九 伊藤徹次郎、小林道雄、菅沼栄、曾根重四郎、長井広夫、篠原泰、安本久、嶋三四郎、伴野徳三郎、大津英輔、植木定美、杉本久敬、森芳夫、緑川俊徳(4)、益田竜也、二一彦、永田徹(3)

五〇 山田喜志夫、田中誠、大庭左文、梶原忠治、浅賀博澄、原崎郁平、田中賢一、佐伯正剛、河瀬士郎、森弘、蘆田正之、難波悦朗、大石鉄夫、林盛次

五一 芥米地一様、直原澄衛、茂呂茂樹、大草知久、綾部立一、川島喜八郎(5)、曾根信一、広川聡、服部雅雄、田中貞司(3)、上林明

五二 奥野孝、小野一夫(3)、三枝正裕、園田芳男、徳永悠久、橋本久仁寿、益田貞三、松前新太郎、月見里得知郎(5)、志田寿一、香林竹男、望月昂、谷静夫、木宮高彦、野崎昌輔、手島正一、島田良彦、片桐鎮夫、瀧美政男、庵原悦次、細井庸二、渡辺治郎、高井昂、大藤直久、安東哲夫、磯野修、佐野圭司、篠原範平、柴崎芳三(3)

五四 佐野資郎、大畑忠夫、黒岩勇三、平林一郎、瀬津三朗、居初良雄

五五 相川富士雄(3)、高橋恒三(3)、武井富夫、中田千束、中田吉信、長沢栄一、法月重雄、鷲巢英策、吉川鎧介、松井保治、野中篤、成瀬信男、山本武、堀江重遠、小沢忠樹、相馬英夫、石神庸一、山下武男、中野治良、青木良文、奥野進、佐野豊彦、清水逸郎、杉原泰二、横森桂、中村治郎、山田隆橋本保二、山口弘、高橋四郎、大野日佐太

五七 影島利邦、杉山正友、藤巻重男、月見里礼次郎、富田澄、高橋礼久、酒井博、坂田秀雄、加藤健三、岩井平一郎、米沢正次、鈴木明、鳥居義彦、菅稔、相馬敏

- 五八 岡田久男、稻葉登、田中勇
奥野広、沢西浩、熊倉均、
望月恵一、田熊博邦、須山
静夫、佐野正夫、猪瀬忠賀
宮崎佐一郎、原田和彦、藤
田登、伊藤健三
- 五九 青山勇、奥沢徹、狩野和男
(4)、福知強、小花敏郎、
三輪潔、高橋裕、水野哲也
寺尾宏一郎、内田武二、川
田昭、清水汪、加藤忠一、
菅原操、近藤陽三、湯本幸
丸、増田真一、富永利夫、
田沢義彦、長田宏
- 六〇 上杉重吉(3)、柴田正臣、
山崎鏡次、逸見昭三、新聞
昌輝、大石隆一、齊木学、
君島康弘、渡辺博、堤崇、
小林金次、原善三郎、満岡
猛、服部昌夫、時田正康、
野沢栄司、石岡忠雄、辻村
輝彦
- 六一 高村岳史、花見久、宇都宮
道和、赤羽昭二、西田駿之
介(5)、大村富士男、大石
次男、八木貞二、青木邦彦
鈴木孝、奥野泰助、天野昭
立花幹夫、富永辰典、安原
徹治、竹迫友一、相馬孝、
土井正樹
- 六二 六三 大塩幸男、白鳥芳夫
稲森茂、三枝弘之、川手生
- 六四 己也
六五 仲野実(3)、名波倉
四郎、野沢正憲(5)、渡辺
宏一、山本和彦、益頭尚文
松下一男、狩野達彦、蛭
川博之、神谷武男、長谷川
直和(3)、望月坦、佐野旭
大村達郎、田中耿、浅井幹
夫、塚本光彦
- 六六 石川劍二、河守輝雄、小林
五郎、増井和夫、武藤勇、
山下智康(3)、北村友孝、
三原載、永島秀次郎、中村
伸吾、村越立彦、菊田聡裕
藤原朝則、加藤昭、江塚弘
安池智策、大村敏夫、原常
勝、山梨裕司、村松武司、
大坪信之、久保泰夫、山下
裕一、杉村行勇、馬越峻、
水野昌和、山本敏雄
朝倉勇、梶原由三、川上剛
二(3)、島居滋夫(3)、成
岡英彦(3)、福原享一(3)
吉野亨、松本安子、朝比奈
正三(3)、遠藤一彦、小杉
一謙、大森恵吉、滝川博、
角田栄一、影山友安、小沢
皎二(3)、石川武治(3)、
稲葉昌弘、塩沢満(3)、加
藤要作
- 六八 岩瀬順郊、立花雅一、星野
敏郎、古崎英輔、荒谷じつ子
宇田貞子、中村睦、栗田瑞
夫、塚本浩司、大川庄治、
- 六九 白鳥健次、石川義昭、雨宮
明生、秋山和也、北村公一
秋原多賀男、石川勝也、福
本準一郎、今井久、大橋勝
弘、額田晃生、田中英夫、
大場正己(1)、佐野録郎、
野中省三、針谷実、川西脩
司、藤巻通男、増井良敏、
高橋俊見、青木靖明
神谷貞子、松島玲子、原田
淑子、田川邦子、原英子、
山本龍男(4)、八木義弘
川端正良、小林孝光、関哲
男、長倉良松、渡辺勝美、
宮本達司、調子達郎、中馬
敏、西山信三、鈴木明次、
三枝竜雄、小山清雄、若林
久二、山田隆嗣、味岡宏、
遠藤藤弥、大野幸男、田形
隆一、牧野甫、村上雅一、
大高源之丞、仁科正雄、池
ヶ谷慎男、滝口登、大長智
深見明、大山祐司、五条朝
男、大地不二雄、小長谷清
実、北村孝、岩崎修、松隈
明雄
- 七〇 七二 桜井亮介、桜井正之、夏目
雅之、小林富二男、花田守
弘、深田均、山口公子、川
端正志(10)、石井漱一、
石川正明、八木伸明、芝田
恵史、田中敬二、松島正明
内藤博次、増田敏一、大木
通宏、加来義信、木村順策
高須喜隆、種茂雅之、黒岩
嘉明
- 七一 七三 佐々木勝彦、後藤孝子、中西
英一、山本昌秀、深沢靖男
君島武男、飯塚迪子、林さ
ち子、西田和子、山田修、
羽山武、渡辺雅俊、小林一
可、小長井猛之、関悦男、
木村敦、稲葉一字(5)、
松下晴一、内山明夫、木下
俊郎、角谷治子、西山肇、
藤原経史(3)、田中佐知
子、佐藤薫郷、山内章(1)
山脇伊久男(4)、高瀬宏
三郎(3)、桑原英明、古
田敏郎、山本肇、小和田久
雄、花本栄二、桑原伊玖子
山口雅子
- 七四 七五 安達嗣雄、石丸信吾、大島
崇志、勝亦正安、鈴木正孝
稲葉辰馬
- 七六 七六 富田駿介、池田哲郎、杉山
貢、鈴木高夫、酒井孝太郎
前川朝夫
- 七七 七七 加藤重信、大岩蓮、深山源
一、安達宣郎、石山建一
- 七九 七九 太田第一
- 八〇 藤江通昌、野崎幸彦、高木
郁生
- 八三 松永元良
- 八四 水越伸昭、高瀬莊一
- 八五 山本政博、山本雄一
- 八六 浦田欣也、藤山崇
- 八七 薬科名雄、橋村芳一、上杉
雅之、藤田彰
- 八八 和田知行、荒谷利昭、小川
幸雄
- 八九 平川慶子
- 九〇 米沢宣行
- 九二 光木瓦、岡野素之、服部泰
子、田中和彦
- 九三 魚住一貴、大津仁昭、松島
優子、依田泉
- 九四 松永啓、太田譲治
- 九五 徳丸和宏
- 九六 小泉博嗣
- 九九 芦川幸男、杉山靖芳、竹内
理夏、宮川慶子、青嶋聡
- 一〇〇 加瀬沢正義、佐藤真紀、朝
比奈幸生、黒田倫史、桜井
良彦、杉田直樹、富田洋久
望月晴之、芹沢正樹
- 一〇一 天野哲、小川敦子、尾上文
世、増田好美、松園紀子、
赤池伸一、伊藤秀洋、谷仁
志、大橋由美子、増田典子
若月美穂子、夏目玲子、大
村尚美、伊藤緑、斎藤敦子
長島晶子、田辺孝子
- 一〇二 矢田久

この盛況！

『江の島会』



78期2、80期1、84期1、96期1
期外1(計46)

二、地域別人数

本部及び静岡県下11、関西支部1、中部支部1、東京都7、埼玉1、千葉1、神奈川県25(なお仙台の42期国分友英君は先約のため残念ながら欠席)もし出席なら東は仙台、西は大阪となる)

三、男女別人数

男40、女6

四、総会

(一)開会

先ず村松直会長(42期)より遠路かつ残暑厳しい中を全国からご参加下さった方々に感謝と歓迎の言葉を呈し、続いて本年三月に物故された33期の稲垣直文先輩の霊に黙禱を捧げてから参会者一人一人の紹介をして親近感と和やかな雰囲気をもたせながら米年の9月6日に行なわれる40周年記念総会に対する絶大なご協力を要請した。

(二)来賓祝辞

本部会長代理安池得之氏(67期)の祝辞をはじめとして鈴木清見現校長の新校舎建設計画、杉山茂樹事務局長(60期)、関東同窓会からは奥野孝会長代理(53期)、関西支部の志田清会長代理(53期)等それぞれの立場からこの際でな

ければ伺い得ない貴重なお話や心暖まる祝辞を頂戴した。

(三)議事と閉会

これは一応型の如く事業並びに会計報告、続いて監査報告を終わる、40周年記念総会の準備等について意見を徴して無事閉会した。

五、記念撮影

片瀬竜口寺前の有名な星野写真館のピタリと呼吸の合った若夫婦の手際よい操作に好感を寄せ、出来上がりを楽しみつつ終了した。

六、懇親会と2次会

さて、いよいよ待ちに待った懇親会に入った。会長あいさつ後直ちに懐かしい校歌を例によって4番迄、43期今井志郎君の名指揮の下に合唱し、続いて遠路をわざわざ静岡から来会された当会お馴染みの28期大石鶴一郎大先輩の壮者を凌ぐ音頭の下に乾杯をして宴に移った。

しばらく恵比寿屋好意の美酒美肴を賞味しながら近隣談話を重ねたが、やがて各期各人一人宛漏れなく近況報告・感想・希望抱負・懐旧談・歌謡・朗読・仕舞・声色等々賑々しく披露された。驚いたことには、何処の宴会にもつきものの、時の経つにつれて騒々しくなり他の演技に耳を傾けず出演者の自己満足に陥ってしまうような

事なく、全く一つ心に目を据え、耳を傾け、共に笑い、互に喜びを分かち合った。いかにこの会が明かるく、楽しく、すばらしい魅力的なものであるか証拠立てられたような気がする。

35期畔柳安雄(以下敬称略) 38

期石割正40期野崎操一42期北村康作・針谷正作・森録の静岡勢、焼津の棚田辰夫、浜松の宮崎忠輝、名古屋の増田位六、関東の井出多米夫・中島敏・村松直等「よんに1会」の意気盛んな面々、43期今

井志郎51期佐伯正剛52期相島秀夫53期奥野孝・園田芳男・月見里得知郎57期岩井平一59期奥沢徹・内田武男・佐野英一・清水汪・富士の勝呂清60期静岡の杉山茂樹同じく67期安池得之同期の成岡英彦・小坂博68期荒谷じつ子・北村公一・杉山和子・星野敏郎・石川勝也・塚本浩司70期吉田修・影山昇

72期谷口諒次78期滝井弘子・白木桃子80期高橋勝彦84期の毎年遠方中津から米島の近藤猛、新進の才媛96期の米沢みどりの岳南健男女多士済々、ともかくもこの世の極楽浄土と譬えようか、武陵桃源の日本版と称えようか、恐らく他の見る目も羨む程の盛会であったことには間違いは無い。

開会以来実に5時間、宿の都合

もあるので午後5時村松会長の万歳三唱後解散、直ちに例の江の島棧橋上の屋台「いそみ」に参集、今回も奥沢・成岡、それに安池氏の好意に甘えた2次会が夜の更ける迄続いた。

七、結語

総会終了後、実にはすがすがしい後味が残ると同時に、来年9月6日(日)の40周年総会に対する期待と意欲に駆り立てられてならない。

なお、祝儀を賜わった多勢の方々、特に関東同窓会長として更に又個人として多大の好意を寄せられた宮沢次郎氏に深甚の謝意を表して筆を擱く。村松直(42期)

内科・外科・整形外科・皮膚科・放射線科
人間ドック

熱 函 病 院

院長 小 坂 博 (67期)

住 所 熱海市春日町12-2

TEL 0557-83-3131

空氣の地球化学

三宅 泰雄 (41期)

(地球化学研究協会理事長)

一、はしがき

空氣は地球に住む人間と生物にとつては、その生命を保つために一刻も欠かせぬものである。しかし、人類が空氣に対する正しい知識に到達したのは、ようやく昨今のことである。

空氣が科学的研究の対象となつたのは、ガリレオ・ガリレイ(一五六四—一六四二)からのことで、ガリレイは空氣が物質であり、したがって、重さをもつことを、はじめて発見したのであった。

空氣の化学組成については、その後、ブリストリー(一七三三—一八〇四)、ラヴォアジエ(一七四三—一七九四)、ゲイ・リュサック(一七七八—一八五〇)らの努力によって少しずつ明らかにされた。しかし、その道はけわしく多くの紆余曲折があった。そこにも人間が真理に到達することの困難さがものがたられている。

私は、いまから三〇年ほど前に

空氣についての知識が、しだいに集積されてきたあとをたどり、空氣の科学史ともいふべき書物を著したことがある。いまでも『空氣の発見』(角川文庫)という書名で市販されているので、空氣の研究史に興味のある方に一読をすすめたい。

二、空氣の組成と量

周知のように、空氣は窒素(78%)、酸素(21%)を主成分とする混合氣體である。それにわずかのアルゴン(0.9%)と二酸化炭素(0.03%)がふくまれている。その他ごく微量な成分としてヘリウム(5×10⁻⁴%)などの希有氣體元素族、オゾン、メタンなどもある。自然大気中では、水蒸氣の存在は重要で、平均して約0.35%くらい含まれている。

酸素の分子量は32、窒素の分子量は28、アルゴンは40であるから空氣の平均分子量は29となる。氣體の1モルは22.4ℓであるから

空氣の重量は1ℓにつき1.293gになる(0°C, 1気圧)。

1気圧というのは底面1cm²、長さ76cmの水銀柱(密度3.6g/cm³)の底面上の重さのことで、1034g/cm²である。1ℓあたり、1.293gの空氣の重さが1034g/cm²にひとしくなるには空氣柱の高さ(0°C、1気圧)は8キロメートルになる。

これを齊一大氣の高さともいう。これをミリバールでいえば、1013ミリバールである。

三、酸素の起源

地球の岩石、水などはすべて酸素の化合物である。したがって、地球上における酸素の存在量はきわめて大きい(地殻の46.6%)。

しかし、これらの酸素は金属やケイ素などと結合しているもので、遊離の酸素ではない。遊離の酸素ができる可能性としては、水蒸氣(H₂O)の熱分解や、短波長の紫外線による光分解である。この時生じた水素は軽いので、地球外に逃散し酸素はあとにこされる。

しかし地球上には酸化第一鉄がかなり存在していたので、わずかの酸素はたちまちそれと結びついて酸化第二鉄をつくり、大氣からふたたび失われてしまった。

こう考えると、大氣中における酸素の起源は植物の同化作用によ

るものしかあり得ない。地球が生まれてから現在まで約46億年が経過しているが、地球の誕生後、20から25億年くらいたって地球上に生物がうまれた。はじめは、おそらく海洋の単純な植物プランクトンであつたろう。この生物の光同化作用で遊離の酸素がつくり出され、それが次第に蓄積して大氣中の酸素となつたのである。

私たちは酸素が生物の生命をたもっていると考えているが、その酸素がまた生物の生産物であることは、きわめて興味のふかいことではあるまいか。

四、窒素の起源

岩石の中には、いまでもわずかの窒素氣體がふくまれている。また、わずかのアンモニアを含有する岩石もある。現在の大氣中の窒素の多くは、時とともに地殻物質から大氣に逃げ出したものであろう。その中にはアンモニアも含まれていたはずであるが、これは酸素の出現とともに酸化されて窒素氣體になつた。

大氣内には窒素のほうが酸素より多いが、地殻全体としては、いまでもなく化合物として存在する酸素のほうが圧倒的に多い。

五、二酸化炭素の起源

大氣中の二酸化炭素(CO₂)の

起源については、二、三の説があるが、そのいずれも材料物質は地殻内に存在する金属の炭化物、たとえば炭化鉄(FeC)であつたという。炭化鉄は一酸化鉄(FeO)によって酸化され、CO₂ができる。あるいは炭化鉄が窒素と化合して鉄のシアナイド(FeCN₂)を生じ、シアナイドと水が化合して炭酸塩ができる経路もある。このほかに炭化鉄は直接、水と化合してメタンもできる。

こうしてできたCO₂は海水にとけて、莫大な量の炭酸塩堆積物を作つた。メタンは生物活動がはじまるとともに、アミノ酸や蛋白質形成のために消費され、大氣中から、ほとんど消失した。

地球上の二酸化炭素物質の大部分は炭酸塩堆積物(石灰岩など)として存在し、大氣圈、水圈、生物圈にとどまつたものは、ごくわずかにすぎない。

大氣中のCO₂は、わずかに1.4×10⁻³が存在するにすぎない。しかし、海洋内ではH₂CO₃、HCO₃⁻、CO₃²⁻の形で大氣中のCO₂の百倍近くある。また生物圏には大氣中の約八倍の炭素がある。

六、アルゴンの起源

空氣中にはヘリウムをはじめとする希有氣體元素族はいずれもき

わめて少量しかふくまれていないのに、なぜアルゴンだけが1%近くも存在しているのであらうか。アルゴンは一八九四年にイギリスのレーリー卿とラムゼーにより空気中の窒素から分離、発見された元素である。その発見の端緒は、窒素の化合物を分解してつくった窒素気体と空気中の窒素とでは原子量に差があり、つねに後者のほうが大きい値をもっていたからである。

こうして空気中にアルゴンの存在がたしかめられた。しかし、それが多量に存在する理由が分かったのは、さらにのちのことである。

以前からカリウムが微弱な放射性をおびていることが知られていた。しかし、その原因がカリウムの中にふくまれているわずかな同位体 β にあることが分かったのは、ようやく一九三七年のことであった。この年にドイツのワイツゼッカーによって β 放射能の本質が明らかにされた。

カリウムの主要な核種成分は、 β で約93%をしめ、このほかに α があつて、約7%をしめている。 β の含量はわずかに0.012%にすぎない。しかし、 β が放射性であるため、カリウム全体として微弱な放射能をおびているのである。

である。

β は特殊な放射性核種で、いわゆる二岐壊変を行う。すなわちその88%は β 壊変によって β と γ となる。のこりの12%は、電守捕獲(E.C.)とよばれる壊変形式で β となる。

電子捕獲というのは、原子核にもっとも近いK電子軌道の電子一個を原子核が捕獲し、原子核は原子番号が一つ低い核種にかわることである。あたらしくできた原子核は励起の状態にあり、したがって γ 線を放出して、基底状態にもどる。

β の場合には、電子捕獲でエネルギー準位の高い β となり、 γ 線を放出して安定な核となる。したがつて β からは、同時に β 線と γ 線の放出が観測される。 β の二岐壊変の半減期は約十三億年とされている。

地殻の内部には多量のカリウム(2.6%)があり、長い地質時代の間に β を生成し、その β が気体の窒素とともに大気に放出され、それが蓄積したので現在の大气中のアルゴンである。

七、空気のはたらき

(1) エネルギーと空気

空気が水とともに生物の生命をたもつとも大切な物質である

ことはいまさらいうまでもないことである。空気中の酸素は動植物の体内で炭素化合物と化合し、二酸化炭素を放出し、そのさい生ずる熱エネルギーが生物の生活力を維持している。

二酸化炭素と水とからは、光合成によって生物を構成する有機物を生産する。そのさいに酸素が大気中に放出される。

生物の中で火をつくり出すことができるのはヒトだけである。そのことは古くからプロメテウス伝説ともなっている。

火の多くは空気中における酸素と炭素化合物の化合のさいの燃焼現象である。この現象が石油、石炭、その他の燃料から莫大なエネルギーを人類に提供しているのである。いいかえれば空気は自然の生命を保持しているとともに、エネルギー生産に関与することにより社会の生命をも維持しているのである。

しかし一方では、莫大なエネルギー生産の結果として多量の二酸化炭素、二酸化イオウ、窒素酸化物等を排出し、これらがいわゆる環境破壊の原因物質ともなった。

(2) 水蒸気存在の重要性

空気のはたらきとしては直接的なはたらきとはいえないが、空気

中にふくまれている水蒸気のはたらきを考えなければならぬ。いうまでもなく、空気中に水蒸気がふくまれているからこそ、地球上の降水現象がもたらされ、陸上に淡水が供給されるのである。また気象、気候の複雑きわまる変動も水蒸気存在に由来している。

また、大気中の二酸化炭素は降水にとけて落下し、岩石に対する大規模な侵蝕作用を及ぼしているのである。

(3) 空気と音

空気のはたらきで忘れてならないのは、空気が音の伝達媒体の役目を果たしていることである。地球上に住んでいる我々は、音の存在するふしぎさを、ほとんど感じてはいない。しかし音は、地球に独特なものである。「惑星」と題する交響曲があるが、実をいえば、「音楽」を楽しめるのは、空気をもち地球の上だけのことなのである。

(4) 空気と光

A 可視光線

空気の物理学的性質についてはおそらく他の著者によって書かれると思うので、ここでは空気と光の関係についてのべる。

空気は無色透明の代表的物質と考えられている。しかし空気にも

色のあることは、晴れた日の青空をみればすぐ分かる。空気は無色ではなく、青色をおびているのである。

光の散乱にはティンダー散乱とレーリー散乱とがある。前者は直径が 0.1 から数ミクロンくらい

の粒子の、表面における光の反射である。これに対し、レーリー散乱は波長の四乗に逆比例しておこる光の散乱で、空気分子くらいの大きさの粒子が散乱体の役目を果たす。

したがって厚い空気層を太陽光が通過するときには、波長のみじかい青紫の光が空気分子で散乱される。これにたいし、他の光は散乱されることなく空気層を透過する。その結果空は青くみえるのである。いいかえれば、あの美しい青空こそ空気の色なのである。

私たちは空気の青色を、大気層の底からみているのである。これに対し「地球は青かった」といった宇宙航空士は、大気層の外からその青色を眺めたのである。空気の色の青色については、液体空気が淡青色をおびていることによつてもしめされている。

(つづく)

◎「建築雑話」一九八一年十月月号所載。

静岡だより

大盛況だった岡村崔写真展



美術の秋にさがけて、八月十二日から九月二十四日まで、新静岡センター五階で、ヴァチカン「ラファエロ壁画」岡村崔写真展が開かれました。

岡村崔さんは、六十期卒業の美術写真家。今回の「ラファエロの壁画」はイタリアルネサンスの天才画家ラファエロがヴァチカン宮殿に描いた壁画を、カメラを通して再現したもので、岡村さんにとって、五年前に同じ会場で開いたミケランジェロの壁画展に続くものでした。

見事なカメラワークでとらえた

スケールの大きさと美しさなど、ヴァチカン宮殿のふん囲気が来場者を魅了し、人気を呼んだ結果、会期は予定より一週間延期され、延べ二万余人が訪れました。一万八千人と二万人目の入場者には岡村さんから直接記念品がプレゼントされるなど大盛況の写真展でした。

静岡市制記念事業で

百年委員会が発足

静岡市は六十四年四月に市制施行百年を迎えます。そこでこのほど記念事業の実施計画策定や実行組織づくりを担う「百年委員会」が発足しました。来秋までに記念行事など実施計画をまとめることになっていきます。

「光と風の祭典」をテーマに各種のイベント、百周年記念会報などの記念施設建設記念出版など多彩な事業の方向づけが、今後進められることとなります。

静岡を盛り上げよう

静岡で、静中・静岡といえはすぐ引きあいに出されるのが静岡。その静岡の同窓生とPTAで組織する「静岡会」(会長・滝浪豊氏)が十月十四日設立されました。

「同窓生・PTA・学校が三位一

体となって「剛健進取」の校風と八十八年の伝統をもつ静岡をもう上げよう」という組織。当面は新校舎完成を機会に進学コースの設置、部活動の充実などを学校側に呼びかける——ということでした。

「懐しの大やきいも」

今回は、舌の思い出を一つ。学校の帰り路、中央公民館で勉強をしていた思い出を持っていらっしやる方も多いことでしょう。あの読書(勉強)室には、城北高校の生徒が多く集まって来たので、勉強よりもそっちの方がお目当てだったのでは?……。

色気の思い出はさておいて、話題は食いの方。そう、中央公民館から長谷通りに出た角の店「大やきいも」のことです。

焼き芋を始めてから八十年ということですから、ほとんどの方のご記憶にあることでしょう。現在の当主は三代目に当たる中村容子さん(四〇歳)で、数人のおぼさんたちと、朝から行列をつくる客をさばっています。日曜日などは、通りの両側に芋の焼けるのを待つ車がズラリと並ぶほど。

その人気の秘密は、まず厳選された芋。今は富士・沼津で特別に栽培した物を使っています。次に釜。昔ながらの大釜を使ってドカ

ッと焼きます。最後の決め手が荒塩。これで熱の通りをスムーズにして焼くので、まろやかな味が引き出せるとのこと。

と、くどくどと能書を並べたててもなく、昔の味の思い出を舌に呼び返していただければ、思わず睡が湧き出て来るはず。静岡にお帰りの際には、ちょっと足を伸ばして「大やきいも」へ立ち寄りたてはいかがでしょう。

朝十時から夜九時まで営業していますが、あまり遅くだと売り切れてしまうことも多いそうですから、お出かけはお早目に。なお定休日は7のつく日です。

△「静岡だより」後記▽

今回はニュース性のあるものを二、三拾ってみました。町の話題としては秋のシーズンとあって、昔なつかしい「大やきいも」の話

を吉水広さんにお願しました。

(67期 光木 徹)

●投稿を歓迎します!

会報は年二回、六月と十二月の発行をめざして、係一同がんばっています。会員の投稿を中心に編集しますので、ぜひどしどし原稿をお寄せください。

・同期会・随想・紀行文・回想記・和歌俳句・新刊の紹介・会報についての意見など

原稿はタテ書き、15字詰めをお願いします。送り先は、

〒114 東京都北区上十条

四一四一五

庵原印刷所 御中

(60期 上杉重吉記)

同窓会コンベンなど、ご相談ください。

伊豆大仁カントリークラブ 伊豆大仁開発株式会社

代表取締役 石橋 正 秋
取締役支配人 安田 正 弥 (66期)

静岡県田方郡大仁町浮橋字南松坂1198-1
TEL 0558-76-2401 (代表)

名簿補遺訂正表 (60. 4. - 60. 10. 変更事項 各内期順不同) (業) は業種別

46期

一宮 弘道 勤務先削除

49期

大津 英輔 (業) 諸工業→ゴム工業

51期

難波 悦朗 ▲藍沢証券(株) (03-272-3111)

54期

磯野 修 勤務先削除

大賀 平 削除

沢井 潤 削除

下山西四郎 勤務先削除

鈴木 猛 ▲社会保険サービス(株) (03-341-7731)

細井 庸司 121足立区中央本町2-3-18

八木銈次郎 勤務先削除

山口 道也 勤務先削除

山田 幸作 勤務先削除

57期

菅 稔 三鷹市中原2-23-5

58期

猪瀬 忠賀 ▲佛新制作社 (03-585-7599)

59期

加藤 恵一 ▲佛宇野製作所営業顧問 (佛柳沢印刷所管理

室長)

60期

新聞 昌輝 ▲佛そごう東京店

61期

相馬 孝 ▲日本放送出版協会

64期

田中 耿 ▲ (03-544-7450)

浅井 幹夫 244 横浜市戸塚区品濃町553-1 パークヒル

ズⅠ-1309 (045-821-5395)

66期

山下 裕一 ▲太陽神戸銀行ほほえみ交通安全協力会 (03-

-866-4971)

69期

田川 邦子 ▲立教大学→文教大学

72期

木村 順策 226 横浜市緑区大丸10番12-304号 (045-

941-2465) ▲日本道路公団

72期

黒岩 嘉明 黒岩嘉章→黒岩嘉明

増田 欽一 (機セイカ)

◎新加入

三橋 宏次 272-01 浦安市富岡2-2 京成サンコーボ14

-501 (0473-54-1391) ▲農林水産省

76期

前川 朝夫 420 静岡市大岩142-2-17

77期

池端 次雄 228 神奈川県相模原市上鶴間644-10 (0427-

-44-7651)

84期

水越 伸昭 243-04 海老名市国分寺台5-6-21 (0462-

32-4361)

85期

勝保健一郎 勝保健一郎に訂正

田中 裕己 川崎高津区→川崎市宮前区

望月 光 長崎転勤

森茂 好広 転居先不明

山下 剛一 転居先不明

田 豊 254 平塚市経町676住友重機械工業社宅内

石川真理子 135

村松 順子 転居先不明

山本 雄一 雅一→雄一 (業) 化学

88期

飯塚 啓和 転居先不明

石川 文雄 転居先不明

岩城 雅典 202 保谷市柳沢5-12-12住友柳沢寮

大棟 正 202

小川 幸雄 ▲ (03-818-0517)

小泉あき子 転居先不明

若林幸子 (旧姓斉藤) →若森幸子 (斎藤) 東京工業大学

工業材料研究所→国際主幹室 内線2353

塩沢 潤 転居先不明

村様新一郎→村松新一郎 転居先不明

森田 義則 (連絡先) 静岡市安東1-11-2

山崎 隆由 転居先不明

山本 睦実 転居先不明

和田 知行 176 練馬区光が丘6-1-1-1109 (03-975-

7912)

渡辺譲→渡辺護 156 世田谷区船橋6-26-1 1006号

94期

小池 一徳 222 横浜市港北区富士塚1-20-20 (045-

431-6123) ▲ (03-349-4321)

100期

福泉 陽介 181 三鷹市上連雀6-32-31石井ハイッ103

(0422-48-2246)

新東京印刷株式会社

代表取締役 梶 原 由 三 (67期)

東京都中央区八丁堀2-1-7

神綱ビル

TEL 03-553-8981 (代表)

不動産のご用はぜひ

三井不動産販売ネットワーク

城南リハウス株式会社

目黒店・自由が丘店・蒲田店

日東不動産株式会社

取締役社長 田 島 弘一郎

取締役副社長 調 子 達 郎 (70期)

東京都目黒区下目黒1-3-27

TEL 03 (491) 0171 (代)

鈴 与 株 式 会 社

取締役会長 鈴 木 与 平 (44期)

清 水 市 入 船 町 11 - 1

TEL (0543) 53-3111 (大代表)

東京支社 千代田区丸の内2-3-2 郵船ビル4F

TEL 03 (284) 0551 (代)

トッパン・ムーア株式会社

取締役社長 宮 澤 次 郎 (42期)

東京都千代田区神田駿河台1-6

TEL (295) 2411 (大代表)

凸版印刷株式会社

東京都台東区台東1-5-1

TEL (833) 2111 (大代表)

本田技研工業株式会社

川 島 喜八郎 (52期)

東京都渋谷区神宮前6-27-8

TEL (499) 0111 (大代表)

株式会社 東 電 社

取締役社長 岩 波 信 平 (42期)

東京都中央区日本橋2-1-21

TEL (271) 2701 (大代表)

日本レーベル印刷株式会社

代表取締役 岩 井 平一郎 (57期)

本 社 静 岡 市 国 吉 田 6 4 5

TEL 0542 (62) 1111 (代)

東 京 中央区京橋1-2 越前屋ビル

TEL 03 (272) 4651 (代)

川 根 銘 茶

三保乃園 山 菅 茶 店

山 菅 章 雄 (53期)

(村 松 正 七)

東京都港区南青山1-20-6

TEL 03-403-5760

建築コンサルタント・設計施工業務

建築に関する御相談は御気軽に……

株式会社 大 雄

取締役社長 奥 野 孝 (53期)

本社 東京都台東区東上野2-18-7 共同ビル10階

TEL 03-834-5331 (代表)

建築設計・監理

株式会社 奥野建築設計事務所

取締役会長 奥 野 孝 (53期)

取締役社長 奥 野 進 (56期)

取締役副社長 奥 野 広 (58期)

本 社 東京都台東区寿2-5-12 加瀬ビル

TEL 03-842-6831 (代表)

静岡事務所 静岡市安東2-8-14

TEL 0542-46-9378

総合広告代理店

株式会社 ア ド プ ロ

代表取締役 朝比奈 正 三 (67期)

東京都千代田区内神田3-4-5 岡崎ビル3階

TEL 03-254-2171 (代表)